

「明治三年 武州金沢藩（六浦藩） 監察日記」(2)

小林 紀子

横浜古文書を読む会 下読み会

本稿は、平成二十八年度から継続している武州金沢藩（六浦藩）の目付（明治二年十一月より監察）が記した公用日記（当館所蔵）の翻刻の続編である¹。六年目となる今年度は、明治三年（一八七〇）の日記を解説・翻刻した。明治三年の日記は一月一日から六月二十九日、七月一日から十二月二十九日の二冊に別れており²、本稿は後者である七月から十二月³の日記（以下「日記」）の翻刻である。

「日記」の形態は、これまでの日記と同様に縦帳で、法量は約二十三・八cm×十六・四cm、厚さ三cmである。記載者は、明治三年前半に引き続き、伊藤喜一郎と関根鑛司である⁴。末尾には「伊藤景員 関根久要 勤役中」⁵とも記されている。原則として勤務および「日記」記載は一日交替だが、関根が「神奈川御番所」⁶警備のため出張した六月十五日から七月二十日の期間は、伊藤が「詰番」と称する連続勤務にあたった。なお「神奈川御番所」警備は明治二年十一月に新政府が藩に命じたもので⁷、明治三年七月に新発田藩と交代するまで⁸、原則として毎月十五日、一か月交代で藩士が派遣されていた。

さて今回の翻刻であるが、特徴的なトピックがいくつかみられる。以下、その中から二点ほど取り上げ、概略を述べる。

この年の六月十九日、藩主米倉昌言と妻竹子との間に男子が誕生し、

同二十五日のお七夜に「欽（よし）若」様と命名され、「若殿様」と称されることとなった⁹。一点目は、この若殿様のお宮参りに関する記事を取り上げる。当初お宮参りは七月二十日に予定されていた。二日前の十八日には、藩士たちに対し、当日の「若殿様」への御目見え、御祝儀として酒が振る舞われること、藩士からは干鯛（に相当する金子）を御祝儀として差し出すことなどが達せられた。しかし翌十九日には、詳細不明だが「御都合の儀」により、御宮参りおよび御目見えと御祝儀のやり取りを延期する旨が通達される。改めて御宮参りが実施されたのは七月二十八日であった。この日の記事によれば、若殿様と供の者たちは四つ時に陣屋を出発し、三侯大明神、八幡宮、御家廟へ参詣した。参詣後は家老に相当する大参事の川上氏宅に立ち寄り、陣屋に戻ったという。参詣先は、いずれも陣屋の敷地内にあつたと考えられる神社や庵である。三侯大明神は藩祖である米倉信継・重継・昌尹を神格化し祀った、天保九年（一八三八）創建の神社¹⁰。御家廟は、もとは「徳石庵」と称した¹¹。「徳石」は三侯の一人でもある米倉昌尹の戒名¹²の一部であり、徳石庵すなわち御家廟は、米倉家の先祖をまつる仏庵であつたと考えられる。また行程から考えると、川上氏の家も陣屋の敷地内にあつたと思われる。一方敷地外にある瀬戸神社

へも参詣すべきところ、「御都合」により参詣せず、代参を立てている。一方若殿様への藩士たちの御目見えも四つ時に行われた。順序としては、御目見えの後に参詣に出発したと思われる。若殿様の抱守¹³をつとめた園尾は、明治三年正月の竹子の着帯の折に「御産御用掛」に任命された人物である¹⁴。藩士たちからは御祝儀の干鯛料が献上され、若殿様の誕生にかかわった人々に金子が下賜された。九つ半時には藩士一同および「卒族下僕」に至るまで、御祝儀として酒が振る舞われた。このように「日記」にはお宮参りの次第が詳しく記されており、大名米倉家の人生儀礼のあり方の一端を知ることができる。また、源頼朝ゆかりの古社として武家の信仰を集めた瀬戸神社とともに、藩祖ゆかりの社や仏庵に参詣している点も興味深い。米倉家の藩祖信仰は篤く、特に三侯大明神については、五月・六月・八月と計三回の祭礼を執行している¹⁵。さらにこの年の八月十九日の祭礼では、「信継大明神四百年御神忌」と若殿様誕生を祝して、神楽十七座と「御藩中若者」による相撲が奉納されている¹⁶。

二点目は藩士たちの改名についての記事である。十二月十五日、大参事の川上より藩士たちに向けて、改名についての通達があった。「何左衛門」「何右衛門」などの「官名」を含む名前が廃されることとなったためである。これは、十一月十九日に発された、旧官名や国名を含む通称を廃止するという太政官達を受けたものであった¹⁷。これを受けて、藩士たちからは続々と改名の願書が提出された。「日記」に書き写された願書をみると、原則として候補の名前二つを記した願書を提出し、「(採用された名前)と改名可被申候」などと記した付札を願書に貼付して提出者に戻す、という形式をとっていたようだ。こう

した具体的な手続きの方法や、藩士たちの新旧の名前が明らかとなり、興味深い。参考までに改名一覧を【表】として文末に示しておくので、参照されたい。この他にも、明治政府の方針により役職の改編や官員減少を行ったり¹⁸、「菊御紋附御幕」を裏門へ張ったり¹⁹するなど、政権が新たになったことに伴う変化も「日記」の随所にみられる。

以上の二つのトピックの他にも、「日記」には藩主昌言の動向や藩の行事・儀礼の記録、藩士たちへの達書、藩士よりの届書、役職任命や転居、賞罰の記録など、豊富な情報が記載されており、監察の職掌や当時の藩の動向を知る手掛かりとなりうる。多くの方々に本資料を活用いただければ幸いである。

なお当館では、令和三年(二〇二一)十月二日(土)～十一月二十三日(火祝)に企画展「横浜の大名 米倉家の幕末・明治「日記」が伝える武州金沢藩、激動の4年」を開催した。本企画展は、慶応四年(一八六八)からの「日記」の内容をベースとしたもので、平成二十八年度から現在までの翻刻の成果を公開することを目的の一つとして実施した。展示ではこれまでの翻刻に加え、今回の明治三年後半部分、そして来年度に解読予定の明治四年の「日記」²⁰の記事も取り上げ、幕末から明治初年の藩の実態を紹介した。また、藩主米倉家に伝来した貴重な資料を、同家のご協力のもと公開することもできた。企画展の成果は図録「横浜の大名 米倉家の幕末・明治」(二〇二二年)として発行した。本資料紹介と併せてご参照いただきたい。

最後に、本資料の解読は、初年度より引き続き「横浜古文書を読む会」の有志「下読み会」が行った。新型コロナウイルスの流行により、昨年度に引き続き、リモートでの輪読にて解読を進めて下さった。会

の皆さんに感謝と敬意を表したい。「日記」は来年度の明治四年解説をもつて最後となる。来年度は、再び顔を合わせての輪読ができる状況となるよう祈りつつ、筆を置くこととする。

とあり、この時に名称が変更されたことがわかる。『紀要』二五号に翻刻掲載。

- 1 平成二十八、二十九年度の二年間で慶応四年の日記を解説、「慶応四年 武州金沢藩目付日記」(1)、(2)として『横浜市歴史博物館紀要』(以下『紀要』)二二・二三号(二〇一七、一八)に掲載した。続いて平成三十、三十一(令和元)年度には明治二年の日記を解説、「明治二年 武州金沢藩(六浦藩) 目付日記」(1)、(2)として『紀要』二二・二四号(二〇一九、二〇)に掲載した。
- 2 「日記」(「萩原家文書」一一五・一一六、萩原義則氏寄贈、横浜市歴史博物館所蔵)。
- 3 この年は閏十月があるため、約七か月ぶんの公用日記となる。
- 4 「明治三年 武州金沢藩(六浦藩) 監察日記」(1)、『紀要』二五号、二〇二二) 参照。
- 5 「景員」「久要」は諱。
- 6 具体的な場所は未詳。
- 7 明治二年「日記」十一月二十三日の条。『紀要』二四号に翻刻掲載。
- 8 新発田藩との交代については、本稿掲載部分に関連記事がみられる(七月十四日、七月二十一日の条)。
- 9 『紀要』二五号に翻刻掲載。
- 10 三侯大明神については、横浜市歴史博物館図録『横浜の大名米倉家の幕末・明治』(二〇二二)を参照のこと。
- 11 明治三年「日記」正月二十七日に「徳石庵御家廟と御改相成候」

- 12 蔵林寺殿徳石道明大居士。米倉昌尹(寛永十四～元禄十二年(一六三七～一六九九))は、徳川綱吉に取り立てられて最終的には若年寄までつとめ、大名となった当主。

- 13 幼児を抱いてお守りをする役目。
- 14 明治三年「日記」正月十八日の条。『紀要』二五号に翻刻掲載。
- 15 明治二年および三年の「日記」によれば、祭礼日は五月二十一日(蔭祭)、六月十二日(本祭)、八月十九日(蔭祭)であり、瀬戸神社の神職が出張して神事を行ったようである。
- 16 若い藩士による角力奉納については、藩士濱野八十人と茂呂郡兵衛が申し出、承諾されたことが八月十二日の条に記されている。
- 17 東京大学史料編纂所データベース『維新史料綱要データベース』ME2040482を参照した。
- 18 十二月一日、十二月十二日の条など。
- 19 十二月二十九日の条。
- 20 「日記」(「萩原家文書」七九五、萩原義則氏寄贈、横浜市歴史博物館所蔵)。

〔横浜市歴史博物館 主任学芸員〕

凡例

- 一 原文の丁移りは「1オ」「1ウ」と表記し、行移りは原文のままとする。ただし一行で収まらない場合は二行とし、行末に「」を付す。
- 一 漢字は原則として常用漢字表に従う。表外漢字については、原文の表記に従う。人名・地名などの固有名詞は原文の表記に従う。
- 一 俗字・異体字・略字は正字に、旧字は新字に直して表記する。
- 一 助詞については、「江」は原文の表記に従う。漢文表現に由来する「之」「而」「哉」「歟」「而已」は原文の表記に従う。
- 一 慣用的合字は「メ」以外はひらがなに改める。
- 一 繰り返し符号は、漢字は「々」、ひらがなは「ゝ」、カタカナは「ゝ」を用いる。「く」はそのまま表記する。
- 一 判読を助けるために読点「、」を適宜補う。
- 一 欠字は一字あけとし、平出は原文の表記に従い改行する。
- 一 判読不能箇所は、文字数がわかる場合は□で、文字数がわからない場合は「」で示す。判読不能だが推定できる場合は（カ）と注記する。

(例) 被仰付 □^(異カ)

- 一 誤字は、正しい文字が明らかな場合は（ ）で注記し、推定の場合（カ）、推定できない場合は（ママ）と注記する。
- 一 原文の翻刻は「横浜古文書を読む会」会員のうち「下読み会」のメンバー（王子全主、駒口秀紀、山根美智子、山本昭男、吉川忠克、渡辺春美、割石洋策）が行い、横浜市歴史博物館学芸員の小林紀子が補訂した。

(表紙)

明治三庚午年

日記

自七月

到十二月

監察局

(表紙裏)

日誌紙數百九拾七葉
(朱書)

1才

七月朔日 丑

詰番 喜一郎

- 一、今日ドン(夕脱)クニ付參局無之
- 一、堀井庄左衛門明二日平服御用御達相成候旨頭職之者より案内有之承り置

七月二日 寅

詰番 喜一郎

- 一、相川徳三郎相川庄九郎左之願書差出候旨頭職之者より申聞有之承り置

私父文左衛門儀去十一月下旬より時候相障候ニ付

吉田周悦葉服用仕候処其後中風相發手足

不自由ニ而難儀仕候間相州三浦郡逸見村医師

安西玄圭^江 軛葉無由(油) 断療養仕候得共追々疲

勞強其上食事進無御座昨今難見放容体御

座候依之私儀御番相引看病仕度此段奉願候

1ウ

七月二日

相川徳三郎

前同文言

相川庄九郎

一、新倉祿三郎左之願書差出候ニ付進達致候旨頭職之者より申聞有之

承り置

私儀去月下旬より眼氣ニ而難儀仕候間引込養生

仕候処追々快方ニ付今日推而出勤仕候然処未眼

病眩と不仕候ニ付銃隊調練之儀何卒全快迄御

用捨被成下候様仕度此段奉願候以上

七月二日

新倉祿三郎

2才

詰番

- 一、堀井庄左衛門昨日平服御用御達ニ付罷出候旨申聞候間其段
- 小参事方^江 申述無程御書院二之間之振合ニ而於御詰所川上大参
- 事殿御達

其方実父堀井庄助儀身

持不行跡ニ付文政七申年五月

養父庄兵衛より永之御暇願之

通被 仰付候処心底取直

候ニ付同十亥年四月御屋敷

一、出入御免之儀庄兵衛より願之 堀井庄左衛門

通被 仰付候処当節引

請可致世話親類無之追々老

衰手放置候儀無心許候ニ付

引取扶養致度旨願之通被

2ウ

仰付之

畢而為御礼御詰所^江 差出ス

若殿様^江も御礼申上之

七月三日 卯

詰番 喜一郎

一、堀井庄左衛門左之御聞置書差出候之旨頭職之者より申聞有之承置

私実父堀井庄助儀引取扶養仕度候旨願之通

被 仰付候_ニ付昨日引取申候此段御聞置可被

下候以上

七月三日

堀井庄左衛門

一、前同断_ニ付左之願書差出候依是又頭職之者より申聞有之承置

私実父堀井庄助儀引取扶養仕度旨願之通

被 仰付難有仕合奉存候依之昨日引取申

候間何卒面扶持被下置候様仕度此段奉願候以上

七月三日

堀井庄左衛門

3才

一、松田長藏用弁済_ニ付昨夕帰宅いたし候依之為御届御詰所_江差出

一、今度御困内御山雜木長嶋与兵衛_江御払相成候_ニ付伐出方都合_ニ

合_ニ

寄而は表御門よりも持運可申候間此段兼而及御断_ニ置候旨

營繕

高沢弥十郎より申聞有之承り置依小頭林七之助_江申達置

右御払代 金貳拾八両

一、萩原唯右衛門方御用向_ニ而今朝横濱表_江被相越候

(朱書)
二日附落

一、相川徳三郎父文左衛門慎 御免被 仰出候_ニ付為御礼即刻御詰所

3ウ

_江可罷出候処御引後_ニ付御宅廻可仕様被相達候旨隊長高木林兵衛方

被申聞候承り置

(朱書)
朔日附落

一、立川源五郎拝領御長屋手狭_ニ而難決仕候_ニ付何とか以御隣

惣外_ニ御長屋_ニ而も拝借

被 仰付被下置度内々隊長中_江歎願も有之_ニ付隊長より其段

大参事衆_江

申上候処当分御春屋隣物置壺ヶ所御貸被下候間親子三人之

内申合同所_江相越居候

而可然旨被仰聞候_ニ付隊長より源五郎神奈川勤番中_ニ付隠

居龍平_江被相達候旨月番

隊長高木林兵衛方被申聞候承り置

(朱書)
二日附落

一、角田市太郎新倉緑三郎染帷子麻上下着用四時相揃御詰所_江

罷出去月十九日 御奥様御安産 御男子様御出生之

恐悦申上之

一、角田市太郎新倉緑三郎暑中為窺御機嫌猶又御詰所_江

差出ス

七月四日 辰 曇 詰番 喜一郎

4才

一、相川徳三郎同庄九郎父文左衛門死去御届書差出候旨頭職之者より申聞有之承り置左之通り

父文左衛門儀久々病氣之処養生不相叶今

辰下刻死去仕候依之定式之忌服請申候

忌 五十日 七月四日より

八月廿三日迄

服 十三ヶ月 午七月より

未七月迄

右之通御座候此段御届申上候以上

4ウ

七月四日 相川徳三郎

一、同文言 相川莊九郎

七月五日 巳 詰番 喜一郎

一、宇田節之助殿妻之兄致厄介引取度旨今度被相願候処願之

通被 仰付候旨為心得詰番小參事方被相達候

七月六日 午 詰番 喜一郎

一、今日ドンタクニ付參局無之

5才

七月七日 未 詰番 喜一郎

一、諸局当番之面々染帷子麻上下着用四時相揃御詰所江罷出

七夕之御祝儀申上之 若殿様江も同断申上之候事

(朱書) 但 局々ニ而罷出申上候事

七月八日 申 詰番 喜一郎

一、堀井庄左衛門実父引取願書先日差出候処御附札濟相成候旨

御内家兼勤柴田又右衛門方被申聞候承り置

5ウ

七月九日 酉 曇 詰番 喜一郎

一、記事無之

七月十日 戌 晴 詰番 喜一郎

一、今日より御山江榎伐人足入込候旨營繕高沢弥十郎より

届有之承り置

(朱書) 明朝飛脚被差立候ニ付右幸領として加藤健次郎罷出ル

七月十一日 亥 晴 詰番 喜一郎

一、今般御藩人別調出来致候処今朝東京江飛脚被差立候ニ付

右人別調帳相廻ス

6才

一、濱野八十人妻出産之御届書差出候ニ付同勤茂呂郡兵衛より
申聞

有之承り置

私妻儀今卯之上刻出産女子出生仕候依之来ル十七日迄

産穢罷成申候此段御届申上候以上

七月十一日 濱野八十人

一、相川徳三郎同庄九郎忌 御免被 仰出候ニ付則同人江相達

候旨隊長高木林兵衛方被申聞候尤今日ドンタク日ニ付何れ

も參局無之間御礼は御宅江罷出候様被相達候旨是又前同人

被申聞候事

一、松本鉚三病氣快方ニ付明十二日出勤之旨頭職之者より申聞
有之

承り置

一、中井新三郎妻此程腫物ニ付難義致外ニ看病世話致候者無之ニ付

願ニ依而神奈川県御番所退番今夕帰着致候事

6ウ

一、松本鉚三左之伺書差出候旨月番隊長高木林兵衛方被申聞候
承り置

私儀病氣追々快方ニ付押而出勤仕度奉存候引込

日数^ニも相成候間此段奉窺候以上

七月十一日 松本御三

七月十二日 子 晴 詰番 喜一郎

一、中井新三郎昨夕神奈川表より退番^ニ付為御届御詰所^江差出ス

一、中井新三郎松本御三先般 御奥様御安産 御男子様

御出生之為恐悦御詰番所^江差出尤染帷子麻上下着用之事

7才

七月十三日 丑 曇 詰番 喜一郎

一、卒族小頭林七之助^江役金式分御渡相成候事

一、去ル十日出立之飛脚東京より戻ル宰領加藤健次郎罷帰

一、神奈川県御番所小遣長吉と申者於御番所番士所持之

金子并着類等盗取候始末露顕いたし候^ニ付今般於彼地

召捕松田長蔵附添^ニ而今夕四時頃至^(到)着直様獄^ニ下し

候事右は隊長より案内有之

七月十四日 寅 雨 詰番 喜一郎

一、神奈川県御番所交代新發田藩出張之人数未至^(到)着有無

7ウ

不相分然ル処明十五日は最早月交代定日^ニも相成候^ニ付東京

表^ニおいて右御藩^江其筋より御問合相成候処多分両三日之

内^ニは至^(到)着可相成旨答有之趣東京御上邸より申越候

^ニ付^レ明十五日出張は先一同見合相成候旨隊長より達相成候事

一、長坂小平太久保仲唯今平服御用之旨川上大参事殿

被仰聞候旨詰番小参事方被相達候間則当人^江相達候処奉

畏候旨御請申上之其段小参事方^江申述

一、恒岡碩五郎唯今平服御用御達相成候旨頭職之者より申聞有之

一、恒岡碩五郎昨今不快^ニ付為名代関根半平罷出候旨申聞有之

一、平服御用面々相揃候^ニ付於御書院二之間川上大参事殿

御口達

8才

水練取立^ニ付益計被下

一、金式百疋 恒岡碩五郎

名代 関根半平

仏式練兵取立方骨折候^ニ付被下

一、金五百疋 長坂小平太

別段

一、金式百疋 同人

仏式練兵取立方骨折候^ニ付被下

一、金五百匹 大久保仲

一、右畢而為御礼御詰所^江差出 若殿様^江も御礼申上之

8ウ

一、下城元長都筑鏈之助中川惣助明朝神奈川御番所^江

出番^ニ付為御届御詰所^江差出ス

一、濱野八十人産穢 御免被 仰出候旨職頭より申聞有之右^ニ付

八十人為御礼御詰所^江差出 若殿様^江も御礼申上候之

一、明十五日休暇被 仰出候^ニ付諸局トシタク可相触様川上

大参事殿被仰聞候間其段以廻章御藩中^江相達

但明後十六日は御定トシタク之事

一、明十五日秋之御祭日同十七日

演暢院様御祭^ニ付染帷子麻上下着用朝五時より

四時迄^ニ御家廟^江参拝致候様以廻章御藩中^江相達

七月十五日 卯 雨 詰番 喜一郎

9才

一、知事様今五時頃御玄闕御通行^ニ而 御家廟^江御參詣
被成候事

一、御藩之面々清服^ニ而御家廟^江參拜致候事

七月十六日 辰 雨 詰番 喜一郎

一、吉田周悅廣瀬安右衛門内願^ニ付神奈川県御番所退番

昨夕至(到)着^ニ付為御届御詰所^江差出ス

一、右兩人染帷子麻上下着用当御詰所^江罷出去去月十九日

御奥様御安産 御男子様御出生之恐悅申上候之事

一、若殿様^江も申上之候事

一、今藏良左衛門殿被成御差出候願書進達致候旨山口喜平治方

被申聞候間承り置

9ウ

房州長尾藩

中村重太郎

右重太郎^江私娘縁組仕度此段奉願候以上

庚午 七月十六日 今藏良左衛門

一、今度田中玄悦六浦領六ヶ村窮民施薬差出候趣達

御聴寄(奇)特之事^ニ思召依之為御褒美御目録金七百疋

被下之候事

七月十七日 巳 晴 詰番 喜一郎

一、神奈川県御番所今度新發田藩無程着^ニ付交代御用為取扱

10才

隊長中沢八十次會計河合宇三郎今日致出立候右^ニ付

河合宇三郎為御届御詰所^江差出ス

七月十八日 午 晴 詰番 喜一郎

一、藤沢元次郎拝領御長屋^江可引移候処自分入用ヲ以普請之ケ

所も」

有之此上少し延引も可仕旨隊長より大参事衆^江申上相成候

旨隊長」

高木林兵衛方被申聞候承り置

一、明後廿日

若殿様御産土之御社^江 御宮參被成候事

一、同日御藩一同^江

若殿様 御目見被 仰付候間何れも染帷子麻上下

着用四時相揃可申事

一、今般御誕生御祝儀^ニ付明後廿日御藩一同^江御酒被下候間

染帷子麻上下着用九時相揃可申事

一、川上大参事殿被成御渡候御書付左之通

監察^江

今般

若殿様御誕生為御祝儀明後廿日

若殿様^江

干鯛 壹折 七枚 五等官

六等官

同 壹折 五枚 上中兵隊

右之通可被差上候

11才

七月十八日

但 凡壹人銀壹匁位之当^ニ而干鯛代^ニ而可差上事

一、七等官^ニ而も從前一之間席二之間席之ものは上中

兵隊之中^江加り可差上候事

一、御内家ニ而在官之者は除候事

一、右廉々川上大参事殿被成御達候間以廻章御藩夫々江相達

一、右御祝儀ニ付卒族一同江御酒被下候旨是又前御同人被仰聞

候間

其旨小頭江相達ス

一、藤沢元次郎左之願書差出候ニ付進達致候旨隊長高木林兵衛

方被申聞有之承置

私拝領御長屋自分入用ヲ以表南之方雪隠

11ウ

際江三尺ニ三尺之建足仕度奉存候尤御用之節は

可為願之通候

元形ニ仕差上可申候此段奉願候以上

七月十八日

藤澤元次郎

一、沢田敬齊宅江男客者人兩三日逗留之旨届有之承り置

七月十九日 未 雨

詰番 喜一郎

十、関根半平左之願書差出候旨職頭より申聞有之承り置

私甥津田多宮并同姉同人母儀先達而より

私方江同居罷在候得共何分人数多手狭ニ付

難渋仕候間可相成儀ニ御座候は何卒御

長屋拝領仕候迄金龍院江当分之内仮住居

為致度此段奉願候以上

七月十九日

関根半平

一、関根半平右之願書差出候処此廉津田多宮より願候方可然旨

大参事衆被仰聞御差戻相成

候事

一、御都合之義有之ニ付明廿日

若殿様 御宮参は御延引被 仰出候依之初而

御目見等も御延引追而御日限可被 仰出候趣川上大参事

殿被 仰聞候間其段以廻章御藩中江相達ス

七月廿日 申 晴 詰番 喜一郎

12ウ

一、津田多宮左之願書差出候旨職頭より申聞有之承り置

私并母儀関根半平方ニ同居罷在候処母儀

先達而より病氣罷在其上半平方人数多手狭

ニ而難渋仕候間可相成儀御座候は何卒御長屋

拝領仕候迄金竜院借請当分之内仮住居

可為願之通候

仕度此段奉願候以上

七月廿日

津田多宮

一、今度戸田吾一殿娘むめ女御内家江当分御雇ニ罷出是迄宅ニ而

被下之面扶持ニ増半扶持被下外ニ

一、恒岡碩五郎病氣ニ付引込御届申上候旨同職茂呂郡兵衛より

申聞有之承り置

七月廿一日 西 曇 当番 鑛司

一、今日ドンタク

一、神奈川県御番所新發田藩と交代相濟万端無滯番士之

面々昨夕帰着ニ付今朝四時相揃為御届御詰所江差出入性

(姓)名

左之通

関根鑛司

石川兵助

萩原文之進

13ウ

下城元長

川上太郎

佐藤謙司

大洞定市

坂田伴助

戸田鉄太郎

柴田一郎

安藤脩太郎

大嶋源三郎

織田福之助

前田彌助

立川源五郎

都筑鏈之助

下城達次郎

中川惣助

小泉四郎

松田常太郎

以上

一、退番之面々染帷子麻上下着用引続御詰所^江罷出^江去月十九日

御奥様御安産 御男子様御出生之御歎申上之

但 下城元長都筑鏈之助は先般御歎申上^江濟候事

一、隊長中沢八十次方新倉新會計金子恒五郎河合宇三郎

義は御人数引払跡取片付方御用等相仕舞彼地出立^三付昨夜

関村

14ウ

三河屋^江一泊今朝四半時頃帰着致候事

七月廿二日 戌 雨 当番 喜一郎

一、新倉新金子恒五郎河合宇三郎昨日退番帰着為御届

御詰所^江差出

一、新倉新金子恒五郎染帷子麻上下着用引続御詰所^江罷出

去月十九日 御奥様御安産 御男子様御出生之恐悦申上

之候

一、当四月廿二日夜河野健藏召捕候盜賊已之助義元野州御支

配所内生立^三付今度同所^江御差遣相成候間卒族小頭林七之助

附添罷越候様小監察より達相成候尤明後廿四日出立之事

一、長坂小平太差出候願書大嶋源三郎差出候御聞置書共進達

致候旨隊長高木林兵衛方被申聞候承り置

私拝領御長屋雪隠家根雨漏并同所壁

落難儀仕候間何卒御序之節御修復被

仰付被下置候様仕度此段奉願候以上

七月廿二日

長坂小平太 印

私養母儀東京親類共迄無拋用事御座候

^ニ付昨廿一日差遣申候此段御聞置可被下候

以上

七月廿二日

大嶋源三郎

一、津田多宮願濟^ニ付今日金龍院^江仮住居引移候旨職頭より

届有之承置

七月廿三日

亥 晴

当番 鑽司

14才

15才

15ウ 一、松本鉦三左之願書差出候旨高木林兵衛方被申聞候間

承り置

私儀当五月下旬より風邪^ニ而難儀仕候

間引込養生仕候処追々快方^ニ付先達

而押而出勤仕候得共未聡と不仕候^ニ付

銃隊訓練之義は何卒全快迄御用捨

被成下候様仕度此段奉願候以上

七月廿三日

松本鉦三

一、中川惣助先達而神奈川県ヨリ退番之節御届可申

上之処足痛^ニ而不參致今日為御届罷出候^ニ付御詰所^江差

出申候

16才

七月廿四日 子 晴 当番 喜一郎

一、藤澤元次郎今日拝領御長屋^江引移候旨隊長高木林兵衛方

被申聞候承置

一、卒族小頭林七之助賊已之助引連今日出立可致之処御用都合

^ニ付今朝出立は延引相成候事

七月廿五日 丑 晴 当番 鑛司

一、相場三弥左之願書差出候御附札ヲ以可為願之通旨

御差図相済申候旨隊長高木林兵衛方被申聞候間

承り置

私儀東京親類共迄無拋用事御座候

^ニ付往返七日立歸御暇被下置候様仕度

此段奉願候以上

七月廿五日

相場三弥

一、相場三弥願濟^ニ付東京^江明朝出立致候旨依之

御暇乞詰所^江差出ス

一、大(太) 政官より之御触書老通川上大參事被成御渡

候間則廻章ヲ以御藩中^江相達申候

17才

七月廿六日 寅 晴 当番 喜一郎

一、今日ドンタク^ニ付參局無之

七月廿七日 卯 晴 当番 鑛司

一、明廿八日

若殿様 御宮參被 仰出其節献上物兼而相達候通

差上可申同日 若殿様 御目見被

仰付候間御藩之面々染帷子麻上下着用四ツ時

相揃可申且又 御延(誕) 生御祝儀^ニ付御藩一同^江

御酒被下候間前同服用猶又九半時相揃可申様

17ウ

川上大參事被仰聞候間其段廻章ヲ以相達申候

一、昨年四月中諸向御預り御道具帳差出候様御

達有之候処未差出不申候向も有之右は来月十日迄^ニ

差出候様相達可申旨前御同人被仰聞候間其段も

廻章ヲ以諸局へ相達申候事

一、川上太郎瘡^ニ付引込之御届職頭より申上候

旨増田少參事被申聞候事

一、明廿八日

若殿様 御宮參^ニ付而は御門番中番共看板

相改候様卒族^江相達ス

一、卒族林七之助賊已之助引連今朝出立致候事

18才

一、新倉祿三郎左之願書差出候旨案原多一申聞候
申聞候間承り置(ハヤ)

私儀眼病ニ付引込宮川弁治薬

服用仕候得共兎角同扁(篇)ニ而難

義仕候間神奈川県御支配所相州

二ノ宮村眼医師伊達龍民方江

罷越療治請申度依之往返十日

立帰御暇被下置候様仕度此段

奉願候以上

七月廿七日

新倉祿三郎

七月廿八日

辰 晴

当番 喜一郎

一、今日

若殿様御宮参御祝儀ニ付

若殿様四時之御供揃ニ而御中之口より

三侯大明神 八幡宮 御家廟江被成御参詣夫より川上

大参事御宅江御立寄被成御帰候事

一、御藩之面々染帷子麻上下着用四時一同相揃於御書院初而

御目見被 仰付戸田権大参事御取合右無滞相濟畢而一同御

詰所一

江罷出御礼申上之

但 若殿様老女園尾御抱守ニ而御書院一ノ間江御出

座御目見之

面々御書院二之間御敷居際より順々ニ着座平伏

之事

19才

一、瀬戸明神江御参詣可被成之処御都合合ニ付 御代参被差立候
一、若殿様御誕生為御祝儀

若殿様江

一、干鯛 七枚 一折

五等官

六等官 此廉在官ニ而も(朱書)

御内家務一

居候者并医員は

除之候一

一、干鯛 五枚 一折

上等

事

中等兵隊

献上性(姓)名左ニ記

豎目録糊入紙

進上

干鯛 一折

以上

新倉 新

村山喜八郎

町田三之助

野嶋思磨

山口篤之進

清水藤藏

篠原多一

關口藤助

佐伯數之助

中井新三郎(朱書)

小安宮渡

根岸友藏

干鯛料
金 二百匹

進上
干鯛 一折
以上

20才

伊藤喜一郎
關根鑛司

濱野八十人

茂呂郡兵衛

今藏信吾

高嶋省三郎

石川兵助

織田從右衛門

萩原文之進

角田市太郎

長坂小平太

高澤彌十郎

金子恒五郎

三木李之助

河合修助

久保幸次郎

以上

上中兵隊并上中兵隊より当時七等官相勤居候者献上性(姓)名左ニ記

進上

干鯛

一折

以上

川上太郎

高沢彌三郎

野本権藏

窪田鑛太郎

相場三彌

21才

坂田伴助

手塚謙之助

長谷川良造

戸田鐵太郎

柴田一郎

安藤脩太郎

大島源三郎

大久保 伸

以上

干鯛料
金 百匹

右御八寸^江載筆頭之者より大参事御詰所^江差出ス

一、御祝儀濟左之面々平服御用御達之旨詰番小参事并職頭之者より申聞有之

欽若様

御誕生ニ付御用掛

金 三百匹

別段

御反物

御名文字差上候ニ付

金 貳百匹

右於御書院一ノ間^江戸田権大参事被相達候

一、平服御用之面々相揃候^江付其段詰番小参事^江申述於御書院ニ之間川上大参事御口達

欽若様

御誕生ニ付御用掛

22才

一、金 貳百匹
山口喜平治

御宮參御祝儀

金 百匹

柴田又右衛門

御宮參御祝儀

一、金 百五拾匹

下城元長

吉田周悅

澤田敬齊

宮川辨治

同

關根半平

篠原治助

飯田繁三郎

堀井庄左衛門

前田弥助大串新平御用引_ニ付

右兩人名代

堀井莊左衛門

一、金 五拾匹

千葉喜太郎

右畢而為御礼御詰所_江差出 若殿様_江も申上之候事

於御内家_ニ左之通り被下之

欽若様

御誕生_ニ付御用掛

金 貳百匹

園尾

別段

23才

金 百匹

御宮參御祝儀

金 百匹

別段

金 百疋

金 五拾疋

金 百疋

別段

金 五拾疋

たき

つた

苑

むめ

松か枝

若菜

御口小遣

三人

鳥目式拾疋ツ、

以上

一、御宮參御祝儀_ニ付御藩一同并卒族下僕迄_江御酒被下候間御

藩之_一

面々一統染帷子麻上下着用猶又九半時相揃御書院_ニ並居頂

戴之

一、知事様

御出座は無之

但_(朱書)御宮參御祝儀_ニ付御酒被下候御礼は御宮參無御

滞被為濟候恐悦并初而_一

御目見被 仰付候御礼今朝御詰所_江申上候節引

続前以申上置_一

23ウ

候事御酒頂戴濟之上^ニ而は晩景^ニも相成彼是混
雜致候^ニ付右様^一

取計候事

右^ニ付而は配下之御礼萩原唯右工門高沢弥十郎

御詰所^江罷出^一

申上之候

七月廿九日 巳 晴 当番 鑛司

一、坂田伴助左之願書差出候旨隊長高木林兵衛方被申聞候承り置

私拝領御長屋表裏庇所々雨漏仕難儀仕候間何

卒御序之節御修復被 仰付被下置候様仕度

此段奉願候以上

七月廿九日 坂田伴助 印

24才

一、御奥様御産家^ニ被為入候^ニ付而は一同御陣屋内^ニ而炮^一(砲)
發見合可^一

申并大奥近所^ニ而は別而万端物靜^ニ可仕旨去月十九日御触達

相成候処前条炮^一(砲) 發は追而相達候迄見合可申候得共其

外之義は^一

是迄之通^ニ而不苦之趣昨廿八日川上大参事被成仰聞候間則

其旨御藩中^江以廻章相達

七月晦日 午 晴 当番 喜一郎

一、今朝東京^江飛脚被差立候^ニ付為宰領大井宗十郎罷越候事

一、新倉祿三郎相州^ニ之宮村眼医師^江昨廿八日致出立候旨篠原

多一より届申出承置

一、大嶋源三郎左之御届書差出候旨隊長中沢八十次方被申聞承

24ウ

置
私養母儀東京表親類共迄無拋用事御座候^ニ付
罷越候処用弁相濟昨夜帰着仕候此段御届

申上候以上

七月晦日

大嶋源三郎

申上候以上

監察^江

明治三庚午年七月十四日弁官於伝達所口達左之通

人日 上元 上巳 端午 七夕

中元 重陽

付而は此表在住知藩事並隱居嫡子参賀可致

事

25才

一、右御達^ニ付而は以来人日 上元 中元之儀五節句
同様御祝儀可被申上候事

右之趣可被相達候

庚午

七月

右之御達書川上大参事被成御渡候間以廻章御藩中^江相達

一、来八月分年月給唯今御渡相成候旨會計正戸田吾一殿

被成御達候間御藩中^江以廻章相達

一、川上大参事御宅^江東京親類より男客老人供老人逗留之旨

尤昨夜至^一(到)着且供人は明朝出立之旨為御案内被仰聞候事

(朱書) 廿九日附落

25ウ

病氣其無扱趣ニ付願之通

一、名主役被成

森 兵四郎

御免候取締役之儀は前々

之通被 仰付之

一、名主役再勤被

宿村

仰付之

兵十郎

右於御詰所川上大参事以御書付被仰渡候旨詰番小参事被申

聞候事

26才

八月朔日 未 晴 当番 鑛司

一、八朔御祝儀ニ付諸局当番之面々染帷子麻上下着用

四時相揃詰所江罷出八朔之御祝儀申上之

一、大(太) 政官より之御触書壱通川上大参事被成御渡候間

則廻章ヲ以御藩中江相達ス

八月二日 申 晴 当番 喜一郎

一、戸田鍔太郎左之願書致進達候旨中澤権少参事

被申聞候間承り置

私実母方伯父東京表ニ罷在候大綱藩

磯矢小隼人儀大病ニ付対面致度趣飛脚

ヲ以告越候間罷越対面仕度可相成儀御

座候ハ、往返七日立帰御暇被下置候様

仕度此段奉願候以上

八月二日

戸田鍔太郎

一、戸田鍔太郎願濟ニ付明曉東京江致出立為御暇乞御詰所江可罷

之処御引後ニ付其儀無之御宅廻」

ニ而相済候

八月三日 酉 晴 当番 鑛司

一、飯田繁三郎病氣ニ付引込御届申上候旨職頭山口喜平治方被申

聞候承置

一、去晦日出立之飛脚宰領大井宗十郎今夕戻ル

一、去月廿六日相場三弥東京江致出立候処用弁濟ニ付今八時頃

帰着」

27才

いたし候

八月四日 戌 雨 当番 喜一郎

一、相場三弥昨日東京より帰着ニ付為御届御詰所江差出

一、去月廿八日 若殿様御宮参御祝儀ニ付御酒被下候為御礼同人義」

尚又御詰所江差出ス

但 若殿様江も申上之

一、元御家来当時浪人山田松之助先般親類共より帰参之義偏ニ

歎願有」

之且当人よりも其筋江内々は迄歎願有之趣弥今般当人より

帰参歎願之」

下書監察宛ニ而小監察萩原唯右衛門方江差出候ニ付即刻川上

大参事江及進達候旨萩原唯右衛門方被申聞候

一、廣瀬安右衛門左之願書差出候旨同勤相川庄九郎より申聞有之

承置

27ウ

承置

私儀本姓廣澤姓ニ御座候間可相成儀御座候

可為願之通候

は此度廣澤姓ニ相改申度此段奉願候以上

八月四日

廣瀬安右衛門

右御附札濟ニ付同人義為御札御詰所^江差出

八月五日 亥 雨 当番 鑛司

一、新倉祿三郎去ル廿九日相州ニ之宮村眼医師^江療治受罷越候処今夕帰着之旨職頭篠原多一より届申聞承置

一、角田市太郎親類共男客忝人両三日逗留為致候旨届申聞有之

28才

八月六日 子 曇 当番 喜一郎

一、今日ドントク

一、山田松之助帰参願書小監察萩原唯右衛門宅^江差出候ニ付同人より川上大参事^江及進達候処御落手相成候事

奉願候覚

私亡父數馬儀先年不束儀^{ママ}之有之永之御暇被

仰出於私も重々奉恐入候其後所々流浪仕候

処累代祖先より之御厚恩ヲ一時^ニ忘却仕候儀悔

悟仕深謹慎罷在候処亡父數馬儀三ヶ年以前

病死去仕私儀当時大山近邑^ニ住居罷在候処先般

私親類御座候当 御支配所相州大住郡根

坂間村百姓旭雨より御出入 御免被成下候様

28ウ

奉歎願候処願之通被 仰付兼々之志願祖先

之墓参等も相叶冥加至極難有仕合奉存候然処

永々之流浪^ニ而追々疲弊仕殊^ニ近年諸色高直之

折柄此上可取統術計無御座難洪仕候先般御出入

29才

願之通被 仰付未間も無之奉願上候儀奉

恐入候得共猶此上之以御憐愍帰参被

仰付如何様^ニも被 召仕候様唯(只力)管奉歎願度

此段

偏御執成之程奉願上候以上

明治三年八月六日 山田松之助 印判

監察

御中

山田松之助

右御用之儀有之間明七日四時麻上下

着用参庁有之候様可被相達候

八月六日

右御書付川上大参事被成御渡候旨萩原権少参事

被相達候間則当人^江相達候処奉畏候旨御請札差出候間

萩原権少参事^江差出ス左之通

用紙糊入裏白半紙^ニ而折掛

御剪紙拝見仕候然は私儀御用之儀

御座候^ニ付明七日四時麻上下着用参

庁可仕様奉畏候右御請為申上捧

愚札候恐惶謹言

29ウ

山田松之助

保邦 花押

八月六日

監察

御中

八月七日 丑 晴 当番 鑽司

一、山田松之助御用ニ付罷出候間其段詰番小参事江申
述置無程御書院於二之間川上大参事以御書付被
仰渡左之通

30才

帰参下等兵隊被

仰付年給金九兩式人扶持

一、被下之学校館掌被

山田松之助

仰付村方江出張可相勤候

月給並之通被下之

一、右畢而御礼之儀御詰所江罷出可申上之処当人口中腫(腫)
物ニ而難儀致候旨申聞候間其段詰番少参事江内々
申述候処増田少参事御礼申述之

一、金子恒五郎左之願書高澤弥十郎ヲ以差出候間承り置

私儀兼而持病之脚氣ニ而難儀仕候得共

押而出勤仕居候儀ニ付銃隊調練之義仰

30ウ

(朱書) 金子恒五郎此願書 本全快迄御用捨被成下候様仕度此段奉願候

差出候処御聞届難相 以上

成御差戻相成候旨

八月七日

金子恒五郎

同勤高沢弥十郎より

申聞有之候事

一、山田松之助学校館掌被仰付候ニ付同勤高澤弥三郎江

引渡申候

一、大(太) 政官より之御触書巻通川上大参事被成御渡候間其段

廻章ヲ以御藩中江相達ス

一、柴田又右衛門方宅江男客式人今晚止宿之旨届有之承置

八月八日 寅 曇 当番 喜一郎

一、大久保仲左之願書差出候ニ付致進達候旨隊長中沢八十治方

31才

被申聞承置

私拝領御長屋自分入用ヲ以二階裏之方江

間三尺之窓明申度尤御用之節は元形仕差

上可申候此段奉願候以上

八月八日 大久保 仲

八月九日 卯 晴 当番 鑽司

一、恒岡碩五郎病氣全快ニ付明十日より出勤仕候旨御届
川上大参事江申述候旨茂呂郡兵衛申聞候間承り置

一、飯田繁三郎病氣快方ニ付明日より出勤仕候旨大参事江

及御届候旨山口喜平治方被申聞承り置

31ウ

被申聞承り置

一、新倉禄三郎左之願書差出候旨案原多一申

聞候間承り置

私儀先達而物髮罷成申候処此節

逆上強其上眼氣ニも相障難義仕候間

月代仕度此段奉願候以上

八月九日 新倉禄三郎

八月十日 辰 晴 当番 喜一郎

32才

一、伊藤喜一郎左之願書職頭^江及進達候

私拝領御長屋表東之方^江自分入用ヲ以三尺^ニ

九尺之庇取付申度奉存候尤御用之節は

可為願之通候

元形仕差上可申候此段奉願候以上

八月十日

伊藤喜一郎

一、恒岡碩五郎唯今平服御達相成候旨増田小参事被申聞候無程

罷出候^ニ付其段詰番小参事^江申述御書院^ニ之間御振合

^ニ而於御詰所川上大参事御口達

欽若様

御誕生^ニ付御用掛

金 百五拾匹

恒岡碩五郎

32ウ

御産髮剃仕候^ニ付

金 百匹

右畢而為御礼御詰所^江差出

一、去月廿八日 若殿様御宮参御祝義^ニ付御酒被下為御礼

同人義猶又御詰所^江差出入惣而 若殿様^江御礼申上之

一、長坂小平太左之御届書差出候^ニ付川上大参事^江及進達

候旨隊長中澤八十次方被申承置

私妻儀今已之上刻出産女子出生仕候依之

来十六日迄産穢罷成申候此段御届申上候

以上

八月十日

長坂小平太

33才

一、卒族小頭林七之助去月廿七日賊已之助引連野州^江致出立

候処無滞彼地^江着賊已之助御郡代所^江引渡今夕帰着

いたし候 ^(朱書) 去月廿八日若殿様御宮参御祝義^ニ付御酒被下候

右代^ニ而 七之助^江被下候事^一

八月十一日 巳 晴 当番 鑛司

一、戸田鉄太郎用弁済^ニ付東京より昨夕帰着致依今日為御届

御詰所^江可罷出候処諸局トシタク^ニ付其儀無之御役宅^江罷出

相濟候事

一、長坂小平太産穢 御免被 仰出候^ニ付為御礼御詰所^江

可罷出之処今日トシタク^ニ付其儀無之候御宅廻^ニ而相濟候事

八月十二日 午 晴 当番 喜一郎

一、川上太郎病氣快方^ニ付明日より出勤之旨増田

少参事被申聞候

一、恒岡碩五郎調練御用捨願書差出候旨濱野八十人

申聞承り置

一、濱野八十人茂呂郡兵衛より申聞候^ニは来十九日

信継大明神四百年御神忌^ニ付

御上^ニ而も御神楽有之候由承知仕右

信継大明神四百年御神忌且神奈川御守衛も無御滞

被為済殊^ニ先般

若殿様御延(誕) 生も有之^ニ付以御藩中若者^ニ而何卒

角力奉納仕度旨申出候間承り置其段大小監察

^江も内々申述置候

一、左之御書付壹折川上大参事被成御渡候間則廻

章ヲ以御藩中^江相達申候

監察^江

来ル十九日卯刻

三候大明神御祭式例年之通有之

且 信継大明神四百年御神忌就

御相当已刻御祭典有之候_二付同日

御藩之面々一統染帷子麻上下着用

銘々詰所々々_江四時相揃恐悦可申上候事

34ウ

一、右御祝儀_二付御藩之面々一同大奥

女中卒族僕迄御赤飯被下候事

一、方金 一包 五等官

六等官

一、方金 一包 上等兵隊

中等兵隊

右之通御当日

御宮_江筆頭之者持参小参事_江差

出奉献可有之候

但部屋住之者も同断

一、下等兵隊_二而も家筋_二付差上度向

は伺之上可為差_二次第事

一、御宮内拝礼之次第左之通

一、式置目 五等官

六等官

一、三置目上 七等官

兵隊之面々

一、三置目下下

局掌

一、翌廿日御祭礼_二付而之御札供物被下候_二付

四時平服_二而一統可罷出候

右之趣可被相達候

庚午八月十二日

八月十三日 未 晴 当番 鑛司

一、川上太郎今日出勤_二付先般

若殿様御延(誕) 生御祝儀_二付御酒御吸物頂戴之御札

詰所_江罷出申上之

一、川上太郎調練願書差出候旨佐藤忠藏方被申聞候

承り置

35ウ

八月十四日 申 晴 当番 喜一郎頼合

鑛司

一、新倉新御剪紙壺通川上大参事被成御渡候旨_二而

柴田権少参事被相渡候間則当人_江相達為御請

御詰所_江差出ス

御用之儀有之間明十五日四ツ時参

庁可被有之候以上

八月十四日 戸田吾一

川上浣二

新倉新殿

36才

一、神奈川県御守衛勤番相勤候面々明十五日

御目見被 仰付候旨大参事より隊長_江御達相成候旨

萩原唯右衛門方被申聞候

八月十五日 酉 晴 当番 鑛司

一、新倉新御用ニ付罷出候旨申聞候間其段詰番小参事江
申述置候

一、神奈川県御守衛勤番相勤候面々一統相揃候旨月番
伍長申聞候間其段詰番少参事江申述置

一、津田多宮当病ニ付不参之旨是又月番伍長申聞候

36
ウ

間其段川上大参事江及御届候

一、御守衛勤番之面々一統於 御書院

御目見被 仰付候ニ付 御出座前ニ御同所二之間

御敷居際より三之間迄左之面々一統並居大参事衆

北之御廊下江御出席南之方御席下江小参事

被罷出当役差引一同相揃候上

御出座御意有之御取合川上大参事相済御退座

被遊候

御意左之通り

隊長

神奈川県守衛勤番

高木林兵衛方

永々何れも出情(精)無滞

中澤八十次方

相済太儀依而酒肴

新倉 新

遣ス

但シ御酒肴料老人ニ付

金五拾疋ツ、

38
才

中井新三郎

伊藤喜一郎

関根鑛司

茂呂郡兵衛

高寫省三郎
石川兵助

織田從右衛門

角田市太郎

長坂小平太

高澤弥十郎

金子恒五郎

下城元長

吉田周説

澤田敬齊

宮川辨治

河合宇三郎

川上太郎

前田國泰

佐藤謙司

飯田繁三郎

黒川文右衛門

大洞定市

森川才助

関根半平

窪田鑛太郎

相場三弥

坂田伴助

手塚謙之助

長谷川良造

堀井庄左衛門

戸田鍊太郎

柴田一郎

安藤修太郎

大嶋源三郎

大久保 伸

野本民次郎

前田弥助

野本鋌之助

松本鉦三

織田福之助

大串新平

藪田定之丞

立川源五郎

藤澤元次郎

相川徳三郎

都筑鏈之助

下城達次郎

濱野銀太郎

中川惣助

廣澤安右衛門

河合覺次郎

茂呂錦三郎

相川庄九郎

小泉四郎

野本次郎

松田長蔵

松田常太郎

幸寫徹造

一、御守衛勤番之面々唯今平服御用有之旨大参事衆

御達之旨詰番小参事被申聞候間其段一同^江相達候処

何れも御請申聞候間前同人^江申述置

一、平服御用之面々御書院於二ノ間川上大参事御口

達^三而左之通被 仰渡小参事待(侍)座当役出席尤權

大参事^江之被仰渡候節は役方不罷出隊長三人^江被

仰渡も同断

神奈川県御守衛無御滞

相濟御大慶被成候右

一、御用向彼是心配取扱 戸田権大参事

太儀 思召候依而御酒

肴御目錄被下之

金 三百疋

御酒肴料

金 五拾疋

一、右御達^三相成候処達而御辞退^三付大参事衆先御預り^三

相成候由

神奈川県御守衛御用

40ウ

取扱勤番先別而心配

一、之儀 太儀

思召候依而御目録被下之

金 壹両

隊長

高木林兵衛方

同

一、前同文言

同断

中澤八十次方

一、前同文言

同断

新倉 新

南文書

一、前同文言

金 三百足ツ、

伍長

高嶋省三郎

石川兵助

萩原文之進

名代

高嶋省三郎

角田市太郎

長坂小平太

41才

一、前同文言

金 貳百五拾疋

同

織田從右衛門

42才

神奈川県勤番出情(精)

兵隊

一、ニ付勤日数ニ応し御目

織田福之助

録被下之

金 貳百五拾疋

但シ百五十日以上勤番

一、前同文言

金 貳百足ツ、

同

佐藤謙司

森川才助

坂田伴助

戸田鏡太郎

柴田一郎

安藤修太郎

大嶋源三郎

野本鋌之助

松本柳三

立川源五郎

相川徳三郎

都筑鍾之助

下城達次郎

濱野銀太郎

中川惣助

河合寛次郎

茂呂鑑三郎

堀井庄左衛門

長谷川良造

手塚謙之助

相場三弥

窪田鑛太郎

大洞定市

黒川文右衛門

飯田繁三郎

前田国姿

川上太郎

河合宇三郎

澤田敬齊

吉田周説

金子恒五郎

高澤弥十郎

茂呂郡兵衛

関根鑛司

伊藤喜一郎

中井新三郎

同

但シ百日已上

メ拾八人

忝田常太郎

一、前同文言

金 七兩貳分

被申聞候間則当人共^江相達候処御請申聞候間

平服御用有之旨大参事衆御達之旨小参事方

一、新倉新高澤弥十郎大串新平濱野銀太郎只今

幸寫徹造

野本次郎

前田弥助

前同人

名代

津田多宮

野本次郎

名代

新倉祿三郎

宮川辨治

下城元長

同

但シ五十日已上

メ貳十五人

忝田長蔵

小泉四郎

相川庄九郎

廣沢安右衛門

藤澤元二郎

大串新平

其段前同人^江申述置

44才

一、高澤弥十郎大串新平濱野銀太郎於

御書院二ノ間川上大参事御口達左之通り

強賊大山無宿徳太郎

一、召捕一段之事候依而

高澤弥十郎

御褒美御目録被下之

金 百疋

賊甲州商人徳太郎

一、召捕一段之事^ニ候

大串新平

依而御褒美御目録

被下之

金 百疋

44ウ

一、右同文言

濱野銀太郎

金 百疋

一、右畢而御礼何れも御詰所^江差出申候

一、関根半平大久保仲野本民次郎藪田定之丞儀

は 御目見之上御意并御酒肴頂戴之御礼而已

御詰所^江差出ス

一、新倉新平服御用^ニ付罷出候処御書院於^二ノ間^ニ

川上大参事御口達左之通

45才

神奈川県御守衛中

一、仮隊長被 仰付置候処

新倉 新

今般 御免^ニ付仮隊

長被成 御免候

一、右畢而御請御詰所^江差出ス

一、前同人御用召^ニ付罷出候処於 御書院

御直^ニ被 仰含畢而御請御礼御詰所^江差出申候

一、如元録事被

新倉 新

仰付之

一、石川兵助新倉新結構被 仰付候^ニ付続柄之御礼

御詰所^江差出ス

45ウ

八月十六日 戌 晴 当番 喜一郎

一、ドンタク^ニ付出局無之

八月十七日 亥 晴 当番 鑛司

一、明十八日ドンタク被 仰出候旨川上大参事被仰聞候間

其段廻状ヲ以御藩中^江相達申候

一、関口藤助長坂小平太金子恒五郎服中^ニ付

信継大明神^江方金奉献遠慮致候間右書付ヲ以

増田小参事^江及御届候

一、明日明後日 三候大明神御祭礼^ニ付町方ヨリ

多人数入込候^ニ付御門面番之処野本民次郎

藪田定之丞外^ニ廣澤安右衛門杏田長蔵都合

四人^ニ而兩人ツ、替り合万端心付候様右は小

監察より相達候事

46才

一、前断^ニ付御陣屋内卒族四人^ニ而繁々見廻り

候様右^ニ付御宮番兩人部屋番中番兼老人都

合三人僕より上ケ人之事

一、明後十九日

三侯大明神^江御参詣被 仰出御殿御清^ニ相成候間

服穢之者は明晩より相引候様川上大参事

被 仰聞候間則廻章ヲ以相達ス

八月十八日 子 晴 当番 喜一郎

一、記ス事無之

46ウ

八月十九日 丑 晴 当番 鑛司

一、今朝卯之刻

三侯大明神蔭御祭礼^ニ付千葉太直雄并社人三人

罷出其節川上大参事詰番萩原唯右衛門当役

^ニ而関根鑛司營繕高澤弥十郎庖厨大洞定

市何れも染帷子麻上下着用

御宮^江相詰御供御手長相勤之

一、社家三人^江御神楽料金式百疋被下当役より相

達候事

一、何れも自拝相済

47才

一、巳之刻

信継大明神四百年

御神忌御祭礼相始候

御宮^江如前断役々相詰候事

但詰番^ニ而は増田小参事

一、御石坂下^江御神楽舞台御出来拾七座有之

一、右御神楽中入之砌

知事様御官服^ニ而御参詣有之

新倉 新

一、方金 一包

但シ 金 式百疋

村山喜八郎

町田三之助

野寫思磨

山口篤之進

清水藤蔵

恒岡碩五郎

筑原多一

佐伯数之助

小安宮渡

中井新三郎

根岸友蔵

伊藤喜一郎

関根鑛司

濱野八十人

茂呂郡兵衛

今蔵信吾

高寫省三郎

石川兵助

織田從右衛門

萩原文之進

角田市太郎

高澤弥十郎

48ウ

三木李之助
河合修助

久保幸次郎

下城元長

吉田周説

澤田敬齊

宮川辨治

ノ 三十人

川上太郎

高澤弥三郎

野本権蔵

飯田繁三郎

関根半平

窪田鑛太郎

相場三弥

篠原治助

坂田伴助

手塚謙之助

長谷川良造

戸田鍊太郎

柴田一郎

安藤修太郎

大寫源三郎

49ウ

一、右は筆頭之者

御宮^江持参小参事^江相渡候事

一、信継大明神四百年

御神忌就御祝儀而之御赤飯御藩御内家之面々一統局々^ニおいて頂戴之

一、三侯大明神御祭礼無御滞相済且 信継大明神四百年御神忌御祭礼無御滞被為濟候恐悦并御赤飯頂戴之御礼何れも詰所^江罷出御礼申上之

八月廿日 寅 晴 当番 喜一郎

一、三侯大明神御神酒供物諸局当番之面々御書院

二ノ間^ニおいて頂戴之畢而御礼詰所^江差出ス

一、兼而御達有之候通

信継大明神四百年

御神忌^ニ付而之神酒供物御札御藩中之面々一同

御書院於二ノ間頂戴之畢而御礼詰所^江罷出申上之

八月廿一日 卯 晴 当番 鑛司

一、山口篤之進野寫思磨明廿二日相州御支配所^江出役

被 仰付候旨右は今日ドンタク^ニ付何れも出局無之依而

御暇乞詰所^江罷出候振合之事

八月廿二日 辰 少雨 当番 喜二郎

一、中井新三郎御届書差出候旨河合宇三郎申聞候間承

り置

49才

一、方金 一包

但シ 金 百疋

大久保 仲

ノ 拾六人

50ウ

私妻義昨夜亥之刻出産女子出生仕

候依之来ル廿七日迄産穢罷成申候此段御届

申上候以上

八月廿二日

中井新三郎

一、森川才助左之願書差出候旨隊長中澤八十次方被申聞候

私義先達中より打身ニ而難義仕押而

出勤仕居候間全快迄銃隊訓練^江

罷出候義御用捨被成下候様仕度此段

奉願候以上

八月廿二日

森川才助

八月廿三日 巳 晴 当番 鑛司

一、廣澤安右衛門願書松田長蔵ヲ以差出候間承り置

私儀当二月下旬より腫物相発難義

仕候間吉田周説薬服用仕候得共兎角

同篇ニ付田中玄悦^江 軛葉無油断療

養仕候処追々快方ニは候得共未睨と不

仕尤押而出勤仕居候は難義仕候事ニ付

相州箱根芦ノ湯^江湯治可然旨右玄悦

申聞候依之可相成義御座候ハ、罷越二

廻り湯治仕度此段奉願候以上

八月廿三日

廣澤安右衛門

一、戸田吾一殿宅^江親類共男客老人当分逗留之旨

御案内有之

一、廣沢安右衛門願濟ニ付明朝箱根^江 出立依而御暇乞

御詰所^江差出申候

一、今夕左之御書付大参事衆御渡之旨詰番小参事

被相渡候間則当人^江相達候処無程名代之者罷出候ニ付

其段前同人^江申述置

前田弥助

右申渡義有之間右之内同道唯今

川上流二宅^江名代老人差出候様可被

相達候

八月廿三日

一、前田彌助名代立川源五郎罷出候ニ付同道川上大参事

御宅^江罷出候処大参事衆例(列)座詰番小参事出席

当役名披露川上大参事以御書付被仰渡左之

通り

思召有之御家従

御免下等兵隊末席

一、差控被

前田弥助

仰付面扶持之内五合

被 召上御陣屋御門

衛卒族打込相勤可

申候

一、右名代之者罷歸り当人^江申聞候処奉恐入候旨御請申

申候旨名代之者申聞候間其段詰番柴田又右衛門方^江

申述置候

一、前田国松父弥助御咎被 仰付候ニ付差控之程奉伺候

52ウ

51ウ

旨句読師宮川弁治申出候間詰番前同人^江申
述詰番より大参事^江申上候処御挨拶無之事

八月廿四日 午 晴 当番 喜一郎

一、左之願書中川惣助ヲ以差出候間承り置

私義頭冷仕候^ニ付惣髮

罷成申度此段奉願候以上

八月廿四日 松田常太郎

一、中井新三郎産穢 御免被 仰出候旨職頭佐藤

忠藏方被申聞有之候事

一、前同人産穢御免^ニ付為御礼罷出候間御詰所^江

差出ス

一、前田国松差控不及其義之旨被仰出候旨川上大参

事殿被 仰聞之趣詰番小参事被申聞候間則

当人^江相達候処無程罷出候^ニ付為御礼詰所^江差出ス

53ウ

八月廿五日 未 晴 当番 鑽司

一、記ス事無之

八月廿六日 申 晴 当番 喜一郎

一、休日^ニ付諸局詰無之

八月廿七日 酉 晴 当番 鑽司

一、飯田繁三郎不快^ニ付引込之御届申上候旨職頭

山口喜平治方被申聞候事

八月廿八日 戌 雨 当番 喜一郎

一、相場三弥惣髮願書差出候旨隊長中沢八十次方被

申聞承り置

54才

私義惣髮罷成申度此段
奉願候以上

八月廿八日 相場三弥

一、野嶋思磨山口篤之進相州御用濟^ニ付昨夕帰着

致候依之為御届御詰所^江差出ス

一、大(太)政官より之御布告書写川上大参事被成御渡候間

則廻状ヲ以御藩中^江相達ス

一、今九半時頃兼而申遣置候赤井村清七罷出候間於

伊藤喜一郎宅小監察出席之上当局御用相勤候様

申達候処御請申聞候事

54ウ

八月廿九日 亥 雨 当番 鑽司

一、九月分年月給唯今御渡相成候旨戸田吾一殿被仰

聞候間其段以廻章御藩中^江相達申候

一、津田多宮不快^ニ付引込之御届申上候旨案原多一

申聞有之

一、来九月分御定用請取申候事

一、幸嶋徹造明朔日御用召御剪紙壺折川上

大参事御渡之旨柴田又右衛門被申聞候間則当人^江

相達為御請詰所^江差出ス

55才

幸嶋徹造

右御用之儀有之問明朔日

四時参庁有之候様可被相達候

八月廿九日

九月朔日 子 曇 当番 喜一郎

一、幸嶋徹造御用召^ニ付罷出候間其段詰番^江申述置無程御書院於二ノ間川上大参事以御書付被仰渡候

一 参事属筆生

幸嶋徹造

被 仰付之

一、右畢而御請御礼詰所^江差出ス

55ウ

一、松田長藏明二日平服御用有之旨御書付川上大参事

被成御渡候旨詰番萩原唯右衛門被相渡候間則当人^江相達

候処奉畏候旨御請申聞候間其段前同人^江申述置

松田長藏

右御用之義有之間明二日

四時平服^ニ而参庁有之候様

可被相達候

九月朔日

九月二日 丑 曇 当番 鑛司

56才

一、松田長藏御用^ニ付罷出候間詰番高木林兵衛方^江

申述置無程御書院於二ノ間川上大参事以御書付

被仰渡左之通り

御家従助被

仰付之勤中年給

一、金四両御増被下月給 松田長藏

並之通被下之御厩小頭

是迄之通

一、右畢而御請御礼御詰所^江差出ス

九月三日 寅 晴 当番 喜一郎

56ウ

一、今般学校出張所川村^江御取建相成候旨右^ニ付山田松之助

同所^江引移取立方可致旨被 仰付候^ニ付今日同人義

同所^江引越候旨高澤弥三郎より届申聞有之

一、今夕刻卒族布川又左衛門^江申渡義有之間名代

之者小監察宅^江小頭同道^ニ而罷出候様林七之助^江

相達候処無程罷出候^ニ付小監察左之通御達

先達而 三侯大明神御祭礼之節不束之義相聞如

何之事^ニ候依之嚴重御咎可被仰出候処御遠忌被為

祝候義^ニも有之間格別之以 御憐愍慎被 仰付

東京飛脚宰領被仰付候節同役四人之勤分ヲ壱人

^ニ而五度続ケ候而相勤候様申渡右之趣名代之者当人^江

申聞候処重々奉恐入候旨御請申出候事

九月四日 卯 晴 当番 鑛司

一、当局^江隊長兩人相控大小監察列座^ニ而織田從右衛門

先達而 三侯大明神御祭礼之節如何之風聞有之

候^ニ付以後右様之心得違無之様同人^江隊長より可被相

達旨申談候事

九月五日 辰 曇 当番 喜一郎

一、記ス事無之

九月六日 巳 晴 当番 鑛司

一、休日^ニ付諸局詰無之

九月七日 午 雨 当番 喜一郎

一、織田從右衛門左之願書差出候旨隊長高木林兵衛

被申聞有之

私拝領仕候御紋服次男

須田鑄次郎^江着用為仕度

此段奉願候以上

九月七日

織田從右衛門

58才

一、布川又左衛門慎 御免被 仰出候旨小監察申聞候
間其旨小頭林七之助^江相達則当人^江小頭より相達候
処難有仕合之旨為御礼監察掛り役宅相廻り候事

九月八日 未

大風雨

当番 鑛司

一、今九半時頃より次第^ニ風烈相成御陣屋内外諸々
破損最寄村々^ニも潰家并家根壁共損候場所
有之候事

九月九日 申 晴

当番 喜一郎

一、諸局当番之面々服紗小袖麻上下着用四時相揃

御詰所^江罷出重陽之御祝儀申上之

58ウ

若殿様^江も同様申上之

一、先般

御奥様御産後御不快被為在候^ニ付一同御陣屋内^ニ而

炮(砲) 発見合可申旨去ル六月十九日御触達相成候処
最早御全快御床上等も相濟候^ニ付炮(砲) 発勝手次第
可為併角場之外は急度不相成候旨川上大参事

被 仰聞候間則以廻章御藩中^江相達候事

九月十日 酉 晴

当番 鑛司

一、記入事無之

59才

九月十一日 戌 晴

当番 喜一郎

一、ドンタク^ニ付諸局詰無之

一、御藩中之面々実名花押且印鑑差出候様兼

而相達置候処未差出不申向も有之^ニ付来廿日迄^ニ
差出候様名前書ヲ以昨日相達置候事

九月十二日 亥 晴 当番 鑛司

九月十三日 子 曇

当番 喜一郎

一、記入事無之

一、左之願書中川惣助ヲ以差出候間承り置

59ウ

私義腫物^ニ而難儀仕候^ニ付

相州箱根芦ノ湯^江湯治

仕度候^ニ付願之通御暇被下置

難有仕合奉存候依之入湯

仕候処致相応候へ共未耽と

不仕候^ニ付尚又壺廻り入湯

仕度奉存候間奉恐入候得共

此上七日之御暇被下置候様

仕度此段奉願候以上

九月九日

廣澤安右衛門

60才

九月十四日 丑 曇

当番 鑛司

一、昨十三日附落

一、明十四日 心珠院様御祭日^ニ付御藩之面々服紗小袖

麻上下着用朝五ツ時より四時迄^ニ 御家廟^江参拝

可致旨川上大参事被 仰聞候間其段以廻章一同

^江相達候事

一、御家廟御祭日之節御藩之面々参拝性(姓)名書

御同所直掌より右帳面以来当局^江差出当局より

詰番小参事^江差出候様尤右帳面取調当病

不参之向は右帳面末^江名前相認可差出候様

中澤権小参事被申聞候事

60ウ 一、濱野八十人萩原文之進長坂小平太高澤弥十郎

金子恒五郎宮川弁治大久保仲右之面々明十

五日御用召御剪紙大参事衆御渡之旨^三而詰番

中澤権少参事被相渡候間則当人共^江相達候処

何れも奉畏為御請詰所^江差出ス

濱野八十人

右御用之儀有之間明十

五日四時参庁可有之候以上

61才

九月十四日

戸田吾一

川上澹二

濱野八十人殿

萩原文之進

一、右同断

61ウ

長坂小平太

一、右同断

高澤弥十郎

一、右同断

金子恒五郎

一、右同断

62才

一、右同断

宮川弁治

大久保仲

一、右同断

一、織田從右衛門角田市太郎明十五日平服御用有

之旨詰番小参事被申聞候間則当人共^江相達候

処奉畏候旨御請申聞候間其段前同人^江申述候

織田從右衛門

角田市太郎

62ウ

右御用之儀有之間明十五日

四時平服^三而参庁有之候様

可被相達候

九月十四日

九月十五日 寅 雨 当番 喜一郎

一、昨日御達相成候御用召并平服御用之面々相揃候^三付其段

詰番小参事^江申述無程於御書院^三御直^三被仰舍

川上大参事御取合

伍長兼勤被

一、仰付之倉廩執籌は被 濱野八十人

成 御免候

依内願伍長

萩原文之進

一、御免營繕司僕被 萩原文之進

仰付之

銃隊調練準教師被

一、仰付之其外掛役是迄

長坂小平太

之通

一、織田從右衛門角田市太郎江於御書院二之間川上大参事以御書
付左之通被仰渡候
今般兵隊組分之御趣意

一、も有之候ニ付伍長被成
織田從右衛門

63ウ

一、倉廩兼勤被

高澤彌十郎

仰付之

64ウ

依内願伍長被成

御免候且今般依被

一、仰出大学南校江為

角田市太郎

倉廩執籌被

一、仰付之營繕は被成

金子恒五郎

御免候

執行被差出候恭励
勤学可致候

一、右畢而為御請御礼何れも御詰所江差出

一、高沢弥三郎都築鏈之助濱野銀太郎統柄之為御礼詰所

江差出入

一、萩原文之進營繕司僕被 仰付候ニ付同勤高沢弥十郎江

引渡候事

一、飯田繁三郎病氣快方ニ付今日より出勤致候旨御家令

65才

山口喜平治方被申聞候承置

九月十六日 卯 曇 当番 鑛司

一、今日トシタクニ付参局無之

一、宇田權大参事御用向ニ付今夕至(到) 着被致候事

一、河田小参事祖先之墳墓江詣度旨願濟ニ付今夕着

被致候事

九月十七日 辰 風雨 当番 喜一郎

64才

朝旨為宣教師(使) 神

祇官江被差出候間恭

謹励精可致勤務候

一、調練準教師輔被

大久保仲

仰付之

一、右之面々外掛役是迄之通或は是迄之懸り役御免被申義

は於御書院二之間川上大参事別段御口達

一、廣沢安右衛門箱根温泉より昨夕帰着致候ニ付為御届御詰所^江差出ス

65ウ 一、若殿様御乳上之女老人今度御召抱相成則今日引越候旨御家令山口喜平治方被申聞承置

九月十八日 巳 雨 当番 鑛司

一、来ル廿二日

聖上御誕辰ニ付而は諸局当番之面々服紗

小袖麻上下着用出局可致尤御祝儀申上候儀

は無之且当日ドンタクと可相心得旨川上大参事

被 仰聞候間其段以廻章相達申候

一、左之御書付彈正台より御達相成候事

66才

明治三庚午年九月彈正台より御渡御書付写

諸藩

監察掛

藩々最寄地方ニ於テ非常異変

有之節は聞込之次第早速可届出

候事

庚午九月 彈正台

九月十九日 午 曇 当番 喜一郎

監察^江

一、福知山御藩知事朽木從五位様奥方様御

病氣之処御養生不被成御叶去十日未下刻

被成御死去候依之

知事様御定式之御忌服可被為請候処

日数相立被成御承知候ニ付残日数御忌服

被為請来ル廿九日迄御忌中被成御座候

事

一、右ニ付五等官以下局頭之面々明廿日四時詰

所^江罷出御機嫌相窺可申候

一、鳴物之儀は今日より三日相慎可申候

但普請は不苦候事

庚午九月十九日

右之趣可被相達候

右之御書付川上大参事被成御渡候間則以廻章御藩

中^江相達

一、河田小参事先祖墓参願濟ニ而被致着候処当表ニ會計御

用等も有之ニ付同人義御用向ニ而出張候事ニ御取直ニ相成候

旨増田

小参事被申聞候

九月廿日 未 晴 当番 鑛司

一、福知山御藩知事朽木從五位様奥方様御病氣

之処御養生不被成御叶去十日被成御死去候依之

今四時局頭之面々詰所^江罷出奉伺御機嫌之

程候事

局頭左^江記ス

禄(録)事

新倉 新

司農屬

野寫思磨

御家扶

恒岡碩五郎

監察屬

関根鑛司

準教師

濱野八十人

伍長

高嶋省三郎

管繕

萩原文之進

医員

下城元長

句読師

川上太郎

局掌

中川惣助

右之通り

69才 一、助教_ニ而宮川辨治可罷出_ニ処無拗病用_ニ付川上

太郎差出候旨申聞有之候事

一、河合与一右衛門後家病氣之処養生不相叶昨夜戌

下刻致死去候間当局_ニ而万端取計申候尤昨夜

致死去候旨即刻卒族小頭林七之助申聞有之

且隣家森川才助中川惣助廣澤安右衛門両小頭

立合之上早速諸道具等取調候事

九月廿一日 申 晴 当番 喜一郎

69ウ 一、町田三之助御用向有之今昼時頃野州表より着致

候旨届申聞有之

一、右同人義小屋之処吟味所と取極相達候処自

分都合_ニ而何卒同役野寫思磨宅_江止宿仕

居度旨申出候旨詰番萩原唯右衛門方被申聞候

一、黒川文右衛門親類女子客両三日逗留為致候旨届

申聞有之承り置

九月廿二日 西 曇 当番 鑛司

一、聖上御誕辰日_ニ付兼而御達相成居候通諸局当番

之面々服紗小袖麻上下着用出局致候事

70才 一、町田三之助昨日野州表より着_ニ付御届伺御機嫌詰

所_江差出ス

一、兵隊組分名前并規則書隊長高木林兵衛方被差出候

間左_ニ記置

一ノ組

伍長

長坂小平太

兵士

窪田鑛太郎

長谷川良造

戸田鉄太郎

70ウ

71ウ

坂田伴助

兵士

濱野八十人

伍長

三ノ組

大井惣十郎

松田常太郎

相川庄九郎

前田弥助

都筑鍾之助

立川源五郎

大久保仲

柴田一郎

相場三弥

兵士

石川兵助

伍長

二ノ組

林七之助

野本次郎

中川惣助

茂呂鑑三郎

相川徳三郎

松本柳三

72ウ

仰付候ハ、誰組^江割入相成候御趣意^ニ付先

之向病氣其外無扱儀^ニ付兵隊入被

一、組分相成候上ハ以後共被 召出候者或ハ御役出

加藤健次郎

廣澤安右衛門

濱野銀太郎

下城達次郎

藪田定之丞

織田福之助

大嶋源三郎

織田從右衛門

手塚謙之助

兵士

高嶋省三郎

伍長

四ノ組

岡田八太郎

小泉四郎

小峯藤次郎

河合覺次郎

藤澤元二郎

野本鋌之助

野本民次郎

安藤修太郎

71才

72才

平常申合吉凶且附合等ハ相組限ニ可被致候
併右様之訳ニ而外組は同勤ニ無之様成

行候而は甚以不宜候間相互ニ念頃(懇)ニ申合可
被致候

一、組々伍長ハ勿論申合行届候様可被致候且
相組兵士之内江外組より批判杯不受様心

附取締可被致候

一、壱ノ組より四之組迄上中下等兵隊打交居候
得共右は年齢都合ニ而割合候儀ニ付左様
可被心得候

73才

一、諸願届其外共以来ハ組々之伍長江申出右
伍長より月番隊長江可被申出候

一、組々伍長其組々ニ不抱(拘)御用向も有之候間
矢張一人ツ、申合月番相立右組々

關係不致候御用向は右月番之伍長取扱
可被申候

一、軍務局当番之儀は一ノ組より四之組迄壱人

ツ、順番を立相勤可被申候

一、四組名前之面々急速出張被 仰付候節戎

服等差支之趣を以拝借相願亦は右等之
事より病氣ニ仕成シ御用捨相願候向も

73ウ

有之間敷候得共万一右様之次第有之候

ハ、嚴重相糺候上 上江申立候得は如何

之御所(処)置可被 仰出哉難計候其場ニ至り

御憐愍之儀相願候共一切取扱不申候間
銘々身分兼而可被致覚悟候

一、以来出兵之節は子持筋腰印相用候間
其都度々々可被相渡候事

但右腰印請取置候向も有之候間早々
取集返納可被致候

一、御支配内非常出火御人数出之御備は一ノ組
より四ノ組迄一ト組ツ、当番相立置其日

之番ニ当り候者速ニ出張可被致候其余ハ兼而
被 仰出候通裏御門内江迅速相詰可被申候

74才

一、出火三丁御人数出之節中等兵隊より壱人
且下等兼而被 仰付置候四人ハ猶此上申談
出張差支無之様手筈可被致置候

一、軍務局御入用諸品会計局江伍長より附
出之節一応月番隊長江相断り候上附

出可被申候尤品ニ寄隊長名目ニ而附出し
候義も可有之候事

一、調練稽古御用引且不快ニ而欠席之節
は其組之伍長江相断急度右伍長より

可被申聞候品ニ寄事實相糺候儀も可
有之候

74ウ

一、非常出張之節卒族壱人ツ、罷出可申就
而は平常は其支配ヲ受出張先は其節之
役頭之差図を請可申事

一、局掌并御門衛之向非常出火之節等出順

ニ当リ居候ハ、御内向当番たり共速ニ

出張可被致候尤非番之向ハ跡介可被心得候

但局掌御門衛之向は軍務局当番相除

可申候

一、文武之儀は兼而御世話有之候ニ付一同勉

強被致候へ共先達而中より日毎之調練稽

古故自然と学校欠席勝ニ相成候然ル処

最早調練稽古日相立候間自今以後

75才

講儀(義)之節等欠席無之様可被致候

一、一小隊出張之節小隊令官以下之役々々其

時ニ臨ミ相達可申候

但伍長而已ニ而人員不足ニ候ハ、外向より

御拱拳可有之候事

一、伍長御預り器械猶早々再調之上帳

面可_(マ)被差出候

但合葉貫目管迄も取調之上帳面

可被差出候且以後火入調練或は角

打等之節合葉管玉等入用之分

帳面_{江認}メ可被置候

75ウ

一、諸願諸伺筋一己之義ニ無之一同より願伺
等も矢張相組を限一同と可被心得候事

一、右は今度軍務局御規則被 仰出候就而は

素より一和ヲ得候儀專一之義ニ付伍長は

勿論一同見込之儀も有之候ハ、平常ニ

可被申聞置候左候ハ、衆義(議)之上可及言上

至当之義ニ候ハ、御取上可有之候間必出兵

急場ニ至リ彼は無之様常々心掛勘考

要務ニ候事

右之通被 仰出且伺濟之ケ条も有之候間此段

及御達候条申合行届急度規則相立一和ヲ

得候様心掛可被申候事

76才

庚午九月

都督

隊長

九月廿三日 戌 晴 当番 喜一郎

一、河合与一右衛門妻隣家廣沢安右衛門ヲ以左之御内慮伺差出候

間早速小監察萩原唯右衛門方_江及進達候

一、私夫與一右衛門儀結構被

仰付候処及年来候得共男子無御座候ニ付与八郎

養子願之通被 仰付候処心底ニ不応候ニ付

離縁仕其後清五郎養子願之被 仰付候処

不熟ニ付離縁仕候後与一右衛門病氣差重候御

私御扶助奉願置死去仕候処御扶助結構被

下置冥加至極難有仕合奉存候其後小八郎

名跡相統養子願之通被 仰付候処

同人儀病身ニ而御奉公難相勤候間双方

熟談之上離縁仕候後永々御扶助被下置候儀

恐入奉存候間養子奉願奉報

御厚恩度奉存候得共度々養子奉願候

段奉恐入候ニ付差控罷在候処私儀此節

重病相煩万一養生不相叶死去仕候は親類

縁者等無御座跡々ニ而家名相続可奉願者無

御座悲歎仕候依之何卒格別之以

御憐愍養子名跡相続被 仰付被下

置候様仕度此段奉願候而も不苦儀御座候

哉御内廬(慮) 奉窺候以上

河合與一右衛門

妻

明治三庚午年九月廿三日

小監察

御中

一、右河合与一右衛門妻前々より再三養子奉願離縁致候義ニ而不

束之義も有之ニ付右願容易ニ御聞届難相成御趣意ニ候

得共及老年重病之折柄且旧家之訳も被 思召格別以

御憐愍御聞届相成候事

一、川上流二殿御宅江親類男客老人今晚止宿之旨案内有之

候事

一、野嶋思磨宅江親類共男老人女子老人今晚

一宿為致候旨届申聞有之

九月廿四日 亥 雨 当番 鑛司

78才 一、左之御届書中川惣助ヲ以差出候間承り置 私養母義武州久良岐郡日野金井村

親類共迄無拋用事有之女子兩人

召連罷越申候此段御届申上候以上

九月廿四日

小泉四郎

一、河合與一右衛門妻願書廣澤安右衛門ヲ以差出候間承り置

右願書小監察より大参事江及進達候事

名跡相続奉願候覚

私夫與一右衛門名跡相続相願奉報

御厚恩度候ニ付御内廬奉伺候処以

御隣(憐) 愍奉願候様被 仰出難有仕合奉存候

依之統者無御座候得共河合修輔次男

河合覚次郎義当午十八歳罷成申候此

者養子仕寸志之奉報

御鴻恩度奉存候間何卒右覺次郎養子

名跡相続被 仰付被下置候様御取成奉

願候以上 河合與一右衛門

妻

明治三庚午年九月廿四日

小監察

御中

一、河合修輔左之願書差出候旨申聞候間承り置

奉願候覚

私次男覺次郎儀結構被

召仕冥加至極難有仕合奉存候然ル処

79才

此度河合與一右衛門妻名跡相統奉願
候^ニ付覺次郎貫請右與一右衛門名跡

相統為仕度旨右同人申聞候間任其

意差遣申度此段奉願候以上

河合脩輔 印書判

大参事

御中

79ウ

一、河合覺次郎御剪紙壹折大参事衆御渡之旨^ニ而

詰番被相渡候間則当人^江相達御請之義は御引

後^ニ付御宅廻り^ニ而可然旨相達候事

右御用之儀有之間明廿五日四時

参庁可有之候以上

九月廿四日

戸田吾一

川上澹二

河合覺次郎殿

80才

一、河合脩輔明廿五日平服御用之旨大参事衆御達之由

詰番小参事方御書付被相渡候間則当人^江相達候処奉畏候

旨御請申上候間其段前同人^江申述置

河合脩輔

右御用之儀有之間明廿五日四時平服^ニ而

参庁有候様可被相達候以上

九月廿四日

一、河合與一右衛門妻御用之義有之間明廿五日平服^ニ而名代忝人

差出候様之御書付大参事衆被成御渡候旨詰番小参事方

80ウ

被相達候間則当人^江相達候処為名代廣澤安右衛門罷出御請
申上候間其段詰番小参事方^江申述置

河合與一右衛門

妻

右御用之儀有之間明廿五日四時平服^ニ而

名代忝人差出候様可被相達候

九月廿四日

九月廿五日 子 晴 当番 喜一郎

一、今日御用召并平服御用之面々何れも相揃候^ニ付其段詰番

小参事方^江申述無程御書院於^ニ一之間川上大参事以

御書付被仰渡左之通

河合與一右衛門妻願之通

其方儀與一右衛門名跡

一、相統被

河合覺次郎

仰付御宛行下等兵隊

並之通被下之

其方次男覺次郎儀河合

與一右衛門名跡相統為

一、致度旨與一右衛門妻申聞

河合脩輔

候^ニ付差遣申度旨願

之通被

仰付之

右畢而夫より於御詰所^ニ川上大参事以御書付被仰渡左之通

其方願之通河合覺次郎

儀夫與一右衛門名跡相

河合與一右衛門

一、統被

妻

仰付御宛行下等兵隊

名代

並之通被下之依其方

廣澤安右衛門

御扶助可差上候

82才

一、畢而何れも御請為御礼御詰所^江差出 若殿様^江も申上之

且 若殿様^江も申上之

一、河合覺次郎席之儀は立川源五郎之上席と相心得可申之旨

川上大参事被仰聞候間則当人^江相達

一、河合与一右衛門妻今般覺次郎義養子願之通被 仰付候^ニ付

而は^一

即刻引取候旨廣沢安右衛門ヲ以小監察^江及届候

但 右引取候御届は御扶助婦人之儀故口上断之事

一、今夕刻河合覺次郎義与一右衛門名跡相統被 仰付候^ニ付而は

今日より養父定式之忌服受可申之旨川上大参事御達之由詰番

小参事被申聞候間則当人^江相達候御書付左之通

河合與一右衛門名跡相統被

仰付候^ニ付今日より養父定式之忌服請候

様可被達候

九月廿五日

一、裏御門潜海老錠損候^ニ付為繕宮繕方^江差出置候事

一、川上流^ニ殿御宅^江去ル廿四日夕止宿之男客今朝為致出立候旨

案内有之候事

一、河合覺次郎左之御届書差出候旨隊長高木林兵衛方

被申聞候承り置

河合與一右衛門名跡相統被

仰付候^ニ付今日より養父定式之忌服請候様

被 仰渡候^ニ付左之通

83才

忌 五十日 九月廿五日より

服 十三ヶ月 午九月ヨリ 閏十月十五日迄

服 未九月迄

右之通御座候此段御届申上候以上

九月廿五日 河合覺次郎

九月廿六日 丑 晴 当番 鑛司

一、今日トシタク^ニ付参局無之

一、河合覺次郎左之御届書差出候旨隊長高木林兵衛方被

申聞候承り置

私養母儀病氣之処養生不相叶今申

下刻死去仕候依之定式之忌服左之通

請申候

忌 五十日 九月廿六日より

服 十三ヶ月 午九月ヨリ 閏十月十六日迄

服 未九月迄

右之通御座候此段御届申上候以上

九月廿五日

右之通御座候此段御届申上候以上

84才 九月廿六日 河合寛次郎
一、小泉四郎左之御届書差出候旨詰番小参事被申聞候承り置

私養母儀武州久良岐郡日野金井村親類共
迄無抛用事有之候_ニ付女子兩人召連去ル廿二日
差遣候処用弁相濟昨夜帰着仕候此段
御届申上候以上

九月廿六日 小泉四郎
一、野本権藏風邪_ニ付引込御届申上候旨頭職之者より届申聞有之
承り置

九月廿七日 寅 晴 当番 喜一郎

84ウ 一、河田小参事此表御用済_ニ付今朝被致出立候

一、町田三之助御用済_ニ付明朝致出立候依之為御暇乞御詰所_江
差出ス

一、新倉祿三郎左之御届書差出候旨頭職新倉新より申聞
有之承り置

私儀当七月下旬より眼病_ニ付引込宮川辨治薬
服用仕候得共兎角同篇_ニ而難儀仕候間神
奈川県御支配所相州_ニ之宮村眼師伊達龍民_江
転薬無油断療養仕候処今以耽と不仕依
之近々出勤可仕体無御座候尚又引込日数_ニも
相成候間此段御届申上候以上

九月廿七(六)日 新倉祿三郎

85才 一、新倉祿三郎左之願書差出候_ト付及進達候旨頭職新倉新より
申聞有之承り置

^(朱書)右新倉祿三郎差出 私儀当七月下旬より眼病_ニ付引込宮川辨治薬_(江)
候此願書見合相 服用仕候得共兎角同篇_ニ而難儀仕候間神奈
成候事 川県御支配所相州_ニ之宮村眼師伊達龍民_江

転薬仕候処程遠_ニ付同州三浦郡逸見村医師
安西玄圭_江 転薬無油断療養仕候処此節追々
快方_ニは罷成候得共未夕耽と不仕且玄圭儀見
舞遠_ニ而難儀仕候間用代仕折々兩人方_江罷越
療治請申度可相成儀御座候は此段奉願候
以上

九月廿七日 新倉祿三郎

85ウ 一、御家徒助堀井庄左衛門唯今平服御用御達相成候旨詰番小参事

被申聞同人義罷出候_ニ付其段詰番小参事_江申述無程御書院
二之間之振合_ニ而於詰所_ニ川上大参事以御書付被仰渡候

野州領此節詔(訟) 獄御用
多_ニ付御用済迄詔(訟) 獄

一、属助役彼地_江出役被 堀井庄左衛門

仰付之支配度次第早々
可致出立候

右畢而為御請御礼御詰所_江差出ス

86才 九月廿八日 卯 曇 当番 鑽司

一、堀井庄左衛門明朝野州表_江出立_ニ付為御暇乞
御詰所_江差出申候

一、出火之節御道具之内团扇拾六本も有之候処先
年御裏御門類焼之節不残焼失致其後伺済

而御出来可相成処其俣_ニ相成居候趣堀井庄左衛門
申聞候間其段川上大参事_江申上候処困扇

六本も御出来_ニ相成候方可然_江被仰聞候間急速

御出来相成候様雜事方大洞定市_江申談置

86ウ

九月廿九日 辰 晴 当番 喜一郎

一、記事無之

九月晦日 巳 晴 当番 鑛司

一、十月分年月給唯今御渡相成候旨戸田

吾一殿被 仰聞候間則廻章ヲ以相達申候

十月朔日 午 晴 当番 喜一郎

一、今日トシタク_ニ付参局無之事

87才

十月二日 未 晴 当番 鑛司

同人不快_ニ付頼合

喜一郎

一、今藏権大参事御用向_ニ付今夕着被致候

一、小峯藤次郎宅_江親類帯刀人一人一兩日止宿為致候旨

届申出有之承り置

十月三日 申 曇 当番 喜一郎

返番 鑛司

一、河合覺次郎忌 御免被 仰出候_ニ付当人_江相達候旨隊長

87ウ

中澤八十次方被申聞無程為御札覺次郎罷出候間詰

所_江差出申候

十月四日 酉 晴 当番 鑛司

一、先達中ヨリ逗留罷在候東京親類男客一人女一人今朝出立為

致候旨川上大参事より案内有之候事

一、大蔵省より之御書付一通川上大参事被成

御渡候間御藩中_江以廻章可達申候事

十月五日 戌 晴 当番 喜一郎

一、大串新平左之御届書差出候_ニ付及進達候旨山口喜平治方

被申聞候承り置

88才

私妻儀東京親類共迄無扱用有之候_ニ付去四日

罷越申候此段御届申上候以上

十月五日 大串新平

一、金子恒五郎左之御届書差出候旨職頭より申聞有之承り置

神奈川県御支配所

相州三浦郡

永井村

百姓

実方伯父

孫兵衛

右孫兵衛儀久々病氣之処養生不相叶昨四日

未之下刻死去仕候段唯今告越申候依之

定式之忌服請可申出養子之訳ヲ以定式

半減残日数請申候

忌 五日 十月四日より

同 八日迄

服 十五日 十月四日より

同 十八日迄

右之通御座候此段御届申上候以上

十月五日 金子恒五郎

一、新倉祿三郎左之願書差出候ニ付及進達候旨職頭より申聞有之承り置

私儀当七月下旬より眼病ニ付引込宮川辨治

薬服用仕候共兎角同篇ニ而難儀仕候間

神奈川県御支配所相州二ノ宮村医師伊達

龍民江軫薬仕候処程遠ニ付同州三浦郡逸

見村医師安西玄圭江軫薬無油断療養

仕候処此節追々快方ニは罷成候得共未

稔と不仕且玄圭儀見舞遠ニ而難儀仕候間

月代仕折々同人方江罷越療治請申度可

可為願之通候

相成儀御座候は此段奉願候以上

十月五日 新倉祿三郎

一、明六日

清凜院様御祭ニ付御藩之面々服紗小袖麻上下着用朝五時

より四時迄ニ御家廟江可致参拝様川上大参事被仰聞

候間其段以廻章一統江相達候

但 御用引且当病不参之向は其旨当局江以来相断候

様達候事」

十月六日 亥 曇 当番 鑛司

一、今日ドンタク

一、清凜院様御祭典ニ付御藩之面服紗小袖麻上下着用御家廟江

拝礼致候事

十月七日 子 雨 当番 喜一郎

一、金子恒五郎忌 御免被 仰出候旨職頭より申聞有之承り置

90才 一、金子恒五郎忌 御免之為御札御詰所江差出ス

一、戸田鍊太郎左之御届書差出候旨隊長中沢八十治方被申聞候

承り置

大網藩

実母方伯父 磯矢小隼人

右小隼人儀病氣之処養生不相叶去ル八月

十九日卯ノ中刻死去仕候段告越申候依之定式

之忌服受可申処日数相立候ニ付今一日遠

廬(慮)仕候此段御届申上候以上

十月七日 戸田鐵太郎

90ウ

十月八日 丑 雨 当番 鑛司

一、河合寛次郎左之願書差出候処御附札濟相成候旨

中沢八十次方被申聞候

養父与一右衛門拝領仕候御紋服私

着用仕度此段奉願候已上

十月八日 河合寛次郎

一、右同人無程為御札罷出候間御詰所江差出ス

十月九日 寅 晴 当番 喜一郎

91才 一、飯田繁三郎大串新平病氣ニ付今日より引込御届申上候旨

職頭山口喜平治方被申聞候承り置

十月十日 卯 曇 当番 鑛司

一、記入事無之

昨九日附落

一、大(太) 政官より之御書付三通川上大参事被成御渡候間則
廻章ヲ以御藩中^江相達ス

一、御旗之章之儀は 御旗 皇族旗 御国旗右一冊

^ニ相成居御藩中拝見之上詰番高木林兵衛方^江返却
いたし候事

十月十一日 辰 雨 当番 喜一郎

一、今日トシタク

一、澤田敬齊宅^江親類共男客老人今晚止宿之旨届申
聞有之承り置

十月十二日 巳 晴 当番 鑛司

一、先頃大奥御末女中老人御暇罷成然ル処替り人
昨日上り候旨山口喜平治方被申聞候

十月十三日 午 曇 当番 喜一郎

一、角田市太郎当人身分義^ニ付而は諸願届或は何事等都而是迄
通伍長^江差出シ東京出張中御用向等は参事宛

^ニ而差出候様御達相成候旨為心得萩原権小参事被申
聞候事

十月十四日 未 雨 当番 鑛司

一、朝廷より御布告之趣も有之^ニ付平田新八郎表札^江
御名目差出候儀は難相成旨川上大参事被

仰聞候間其段以手紙当人^江相達候処御達之趣
奉承知候旨御請申越候間其段前御同人^江申述置

十月十五日 申 曇 当番 喜一郎

一、大串新平病気快方^ニ付今日より出勤之旨御家令兼柴田
聞候

又右衛門方被申聞候承り置

十月十六日 酉 晴 当番 鑛司

一、今日トシタク^ニ付参局無之

十月十七日 戌 晴 当番 喜一郎

一、今藏良左衛門殿御用済^ニ付今曉出立被致候事

一、為火之廻且非常取締之今般左之通御規則相立候旨詰番
増田小参事被相達候

一、当午年より往年十月朔日より翌三月晦日迄

火之廻且非常為取締兵隊^ニ而左之通夜廻り
可致候事

戌ノ刻

亥ノ刻

子ノ刻

丑ノ刻

寅ノ刻

卯ノ刻

風烈之節且物怪砌は猶更入念巡察可致

候事

庚午 十月

右^ニ付今晚より廻り相始候尤御陣屋内丈之事

一、大藏省より之御布告書写老折川上大参事被成御渡
候間則以廻章御藩中^江相達

一、坂田伴助左之願書差出候旨隊長中沢八十治方被申
聞候

私儀銃隊調練^江可罷出之處此程却(脚)氣

而難儀仕候間御奉公は推(押)而相勤居候得共

調練之儀何卒全快迄御用捨被成下候

94才

可為願之通候 様仕度此段奉願候以上

十月十七日 坂田伴助

十月十八日 亥 雨 当番 鑛司

一、明後廿日 若殿様御箸揃被成候^ニ付四等官以上服紗

小袖麻上下着用四ツ時罷出御祝儀申上之且御内家

一統医員同様着服相改御祝義(儀)申上右^ニ付御赤飯被

下置候旨心得迄^ニ中澤八十次方被申聞候

一、山口喜平治明十九日平服御用有之旨為心得前同人

被申聞候事

94ウ

十月十九日 亥子 雨 当番 喜一郎

明廿日

若殿様御箸揃御祝儀

一、被為整候^ニ付御箸親 山口喜平治

被 仰付之

右於御書院二之間川上大参事御書付以被仰渡候事

一、佐藤忠藏殿左之願書被差出候旨詰番萩原権小参

事被申聞候

私在所武州都築郡久保村生家より無拋

用事申越候依之可相成儀御座候は

差向候用事^ニ付罷越用弁仕度奉存候

95才

間往返五日之立帰御暇被下置候様仕度此段

奉願候以上

十月廿日 佐藤忠藏

十月廿日 子丑 雨 当番 鑛司

一、今日若殿様御箸揃被為整候右^ニ付御内家之面々

一統并医員何れも着服相改右御歎且御赤飯頂

戴之御礼御詰所^江差出ス

一、山口喜平治今日平服御用有之右は

若殿様御箸親相勤候^ニ付御目錄金三百疋被

下置候旨萩原唯右衛門被申聞候

十月廿一日 丑寅 曇 当番 喜一郎

一、今日ドンタク記ス事無之

十月廿二日 寅卯 雨 当番 鑛司

一、篠原治助風邪^ニ付引込之御届申上候旨職頭山口

喜平治方被申聞候

一、小ノ方螺貝壺ツ塩浜調練之節人数引揚之為知^ニ相用

候^ニ付營繕高澤弥十郎^江相渡同人より印紙取置候処当

節は調練稽古昼後^ニ相成右螺貝入用^ニ無之候間高

澤弥十郎^江申談螺貝返納為致且印紙差戻し候事

96才

一、幸嶋徹造唯今平服御用有之旨大参事衆御達

之旨柴田又右衛門方被申聞候間其段当人^江相達候

処御請申聞候間前同人^江申述置無程御書院二之

間之振合ヲ以詰所^ニおいて川上大参事以

御書付被仰渡候

学校館掌助相兼

一、川出張所^江引移可

幸嶋徹造

相勤候

一、右畢而御請御札御詰所^江差出ス

96ウ

一、幸嶋徹造義右之通り被 仰付候^江付山田松之助^江
以書中及案内置候

十月廿三日 卯辰 曇 当番 喜一郎

一、幸嶋徹造川村学校出張所^江今日昼後より引移候旨職頭

新倉新より届有之承置

一、津田多宮風邪^ニ付引込御届申上候旨職頭新倉新より申聞

有之承置

十月廿四日 庚巳 晴 当番 鑛司

一、佐藤忠蔵方用弁相濟昨夜帰着被致候旨中澤

八十次方被申聞候

97才

一、飯田繁三郎病気快方^ニ付明日より出勤之旨

山口喜平治被申聞承り置

十月廿五日 申午 雨 当番 喜一郎

一、御手工兼次郎^江左之通被 仰渡候旨支配萩原文之進より

申聞有之承り置

司僕^江

大工 兼次郎

營繕方御用多^ニ付当分半扶持御増

被下

右之趣可被申渡候

97ウ

十月廿五日

十月廿六日 未 晴 当番 鑛司

一、今日トシタク^ニ付出局無之

十月廿七日 申 曇 当番 喜一郎

一、新倉祿三郎左之御届書差出候旨職頭より申聞有

之承り置

私儀当七月上旬より眼病^ニ付引込

宮川弁治薬服用仕候得共兎角

同篇^ニ付神奈川県御支配所相州

淘綾郡二ノ宮村医師伊達龍民^江

転薬無油断療養仕候へ共何分程遠

^ニ而行届兼候間同州三浦郡逸見村

医師安西玄圭^江転薬無油断療

養仕候処追々快方罷成候へ共今以睨と

不仕近々出勤可仕体無御座候尚又引込

日数^ニも相成候^ニ付此段御届申上候以上

十月廿五日 新倉祿三郎

十月廿八日 酉 晴 当番 鑛司

一、布川又左衛門飛脚為宰領今朝東京^江致出立候事

一、戸田吾一殿縁者男客壱人家内子供壱人召連罷越

98ウ

昨夜一泊致右は兼而御内慮伺相濟居候宮尾家相統

為致候人^ニ而追而御所(処)置可有之夫迄之処金龍院借

請当分同所^ニ逗留致居候旨右は含迄^ニ前御同人

被 仰聞候事

十月廿九日 戌 曇 当番 喜一郎
一、濱野八十人差出候願書及進達候旨隊長中沢八十次方被申聞候承置

私儀東京表親類共迄無拋用事御座候_ニ付
往返七日立歸御暇被下置候様仕度此段

可為願之通候

奉願候以上

十月廿九日

濱野八十人

99才

一、来閏十月分御定用紙品料并蠟燭代共受取候事

一、来閏十月分年月給共唯今御渡相成候旨會計正戸田

吾一殿被仰聞候間則其段以廻章御藩中_江相達

私父実方之伯父宮尾文輔儀結構被

召仕段々奉蒙 御厚恩候儀不相弁養子

文輔出奔仕一時_ニ家名断絶仕候段於私深恐入

奉存候_ニ付故文輔寸志之奉報

御厚恩度奉存候間此節相応之者有之候は

右家名相統奉願候而も不苦御座候哉此段

御内慮慮奉窺候以上

月 日

戸田吾一

99ウ

右伺書即日不苦之旨御口達有之候事

家名相統奉願候覚

私父実方伯父宮尾文輔儀結構被

召仕段々奉御厚恩候儀不相弁

養子文輔一時_ニ家名断絶仕候段於私深恐入

奉存候_ニ付故文輔寸志之奉報

100才

御厚恩度奉存候間相応之者有之候は右家
名相統之儀奉願候而も不苦御座候哉之段
奉窺御内慮候処奉願不苦之旨被 仰出

冥加至極難有仕合奉存候然処旧幕之節

御旗本小堀右近殿家来当時浪人稻生徳太郎

と申者当午四十五歳罷成故文輔従弟違之続_ニ

も有之相応之者御座候間右徳太郎儀何卒此

上之以 御憐愍如何様_ニも故文輔家名相統

被 仰付被下置候様偏奉願候以上

明治三庚午年十月廿九日 戸田吾一 印判

大参事

御中

右御内慮伺且家名相統願書共増田小参事より川上

大参事_江及進達候旨為心得前同人被申聞候

100ウ

一、稻生徳太郎_江当役面会之上引続小参事一同面会被致

候旨被申聞候間即刻当人_江麻上下着用_ニ而公庁_江唯今罷出候様

相達候処奉畏候旨御請申出候間其段詰番小参事_江申述置無

程罷出候_ニ付中_江口上_江為控当役兩人同所_江罷越致面会候且

面会いたし候処相応之者_ニ有之候旨詰番少参事_江申述夫よ

り小参_一

事一同同所_ニ而面会相濟候事尤為案内当役出席之事

一、稻生徳太郎明朔日御用召御剪紙川上大参事被成御渡

候旨詰番増田小参事被相渡候間即刻当人_江相達候処奉

畏候旨御請札差出候間則詰番小参事_江及進達候

101才

稻生徳太郎

右御用之儀有之間明朔日四時麻上下

着用参庁有之候様可被相達候

十月廿九日

用紙糊入裏白半紙^ニ而折掛

御剪紙拜見仕候然ハ私儀御用之儀御座候

^ニ付明朔日四時麻上下着用参庁可仕様奉

畏候右御請為可申上捧愚札候恐惶謹言

稻生徳太郎

十月廿九日

実名書判

監察

御中

101ウ

閏十月朔日 亥 雨 当番 鑛司

一、稻生徳太郎御用^ニ付罷出候^ニ付其段詰番小参事^江申述

戸田吾一願之通其方儀

宮尾故文輔家名相統

被 仰付下等兵隊被

一、召出御宛行高金九両

式人扶持被下学校館掌

被 仰付月給並之通被

下之

稻生徳太郎

稻生徳太郎儀宮尾故

文輔家名相統被

一、仰付下等兵隊被

戸田吾一

召出御宛行高金九両

式人扶持被下学校館

掌被 仰付之

右於御書院二之間川上大参事以御書付被仰渡候畢而

宮尾徳太郎義御請御礼として御詰番所^江差出

一、宮尾徳太郎学校館掌被仰付候^ニ付同勤高沢弥三郎^江引

渡候事

102ウ

一、宮尾徳太郎左之願書差出候^ニ付及進達候旨同勤高沢弥三郎

申聞有之承置

定右衛門

右私養祖父之名^ニ相改申度此段奉願候

以上

閏十月朔日

宮尾徳太郎

一、宮尾徳太郎同勤高沢弥三郎を以大参事^江初而御逢申

込候^ニ付其段当局より詰番小参事^江申述ル小参事より大

参事^江伺候処御承知相成候^ニ付同勤高沢弥三郎差添

当役同道^ニ而川上大参事御宅^江罷越御逢有之候事

一、濱野八十人願濟^ニ付明朝東京^江致出立候^ニ付為御暇乞

詰所^江差出

103才

閏十月二日 子 晴 当番 喜一郎

一、津田多宮風邪快方^ニ付今日より出勤之旨職頭新倉新より

102才

其許願之通当時浪人

申聞有之承置

一、佐藤権大参事左之御届書被差出候旨詰番小参事被申聞候承置

神奈川県御支配所

武州都築郡久保村

医師

甥

佐藤□(恭力)安

右□(恭力)安儀病氣之処養生不相叶一昨廿九日

亥ノ上刻死去仕候段唯今告越申候依之

定式之忌服残日数請申候

忌 三日

十月廿九日より

閏十月二日迄

服 七日

十月廿九日より

閏十月六日迄

右之通御座候此段御届申上候以上

閏十月二日

佐藤忠藏

一、宮尾徳太郎改名願御附札濟ニ付為御札御詰所^江差出

明三日

御目見被

仰付候間四時参庁可有之候以上

閏十月二日

戸田吾一

川上浣二

宮尾徳太郎殿

一、右御剪紙川上大参事被成御渡候旨詰番小参事被相渡

候間則当人^江相達候処奉畏候旨御請として御詰所^江

差出

一、布川又左衛門今夕東京より戻ル

閏十月三日 丑 晴 当番 鑛司

一、新倉祿三郎今日出勤伺差出候処勝手次第可致出勤旨

御差図相濟候旨職頭新倉新申聞候

一、宮尾定右衛門服紗小袖麻上下着用罷出候間其段詰

番小参事^江申述置無程御書院二ノ間^ニおいて

御目見被 仰付川上大参事御取合畢而当人為

御札御詰所^江差出ス

一、新倉祿三郎明日より出勤仕候旨職頭より届申聞候

一、大(太)政官より之御布告書老通川上大参事被成御渡候間

則以廻章御藩^江相達申候

(閏)十月四日 寅 晴 当番 喜一郎

一、記ス事無之

閏十月五日 卯 晴 当番 鑛司

閏十月六日 辰 晴 当番 喜一郎

一、今日ドンタク^ニ付諸局詰無之

閏十月七日 巳 雨 当番 鑛司

一、澤田敬齊左之願書差出候旨山口喜平治方被申聞

候^ニ付留置

私儀東京表親類共迄無抛用事

御座候^ニ付往返七日立帰御暇被下置候

様仕度此段奉願候以上

閏十月七日 澤田敬齊

一、手塚謙之助左之願書差出候処御附札相濟候旨隊長

高木林兵衛方被申聞候

私拝領御長屋自分入用ヲ以表之方^江

壺間^三二尺之窓明申度尤御入用之

節は元形^三仕差上可申候此段奉願候

以上

閏十月七日 手塚謙之助

閏十月八日 午 晴 当番 喜一郎

同人種(腫)物^三付頼合

鑛司

一、窪田鑛太郎左之御届書昨日及進達候旨高木林兵衛方

被申聞候

私母儀東京表親類共迄無拋用事

有之昨六日差遣申候此段御届申

上候以上

閏十月七日 窪田鑛太郎

一、澤田敬齊東京表親類共迄用事有之往返七日

之御暇被下置候様昨日願書差出候処即日御附札

濟相成候^三付今朝出立依而御暇乞昨日御詰所^江

差出候事

閏十月九日 未 晴 当番 鑛司

一、今曉七ツ時頃御支配所宿村^三而博□(突カ)致居候者有

之^三付司農属同所^江罷越召捕候趣右^三付不

浄門為明ヶ候事

閏十月十日 申 晴 当番 喜一郎

一、今昼後より白洲相立候^三付卒族兩人差出候様司農局より申

出有之^三

則小頭^江相達

行政官支配

士族

多賀鞠負

触下

士族

近藤鉄三郎

母

右鐵三郎母儀私方^江当分逗留為仕度候

間此段御聞置奉願候以上

十月廿九日

小安宮渡

右為心得詰番小参事 被相達候

閏十月十一日 酉 晴 当番 鑛司

一、去ル二日濱野八十人東京^江致出立候処願日数^三而未用弁致

兼候^三付於尚彼地^三追願差出昨夕帰着致候為右御届御詰

所^江可罷出之処今日トシタク^三付諸局共参局無之依之

御宅廻^三相濟候事

閏十月十二日 戌 晴 当番 喜一郎

一、昨十一日長谷川良造出府願差出候^三付及進達候旨隊長

高木林兵衛方被申聞候承置

106才

105ウ

107才

107ウ

私儀東京表親類共迄無拋用事御座候

付往返七日立歸御暇被下置候様仕度

此段奉願候以上

閏十月十一日 長谷川良造

右付同人義為御暇乞御詰所^江差出

閏十月十三日 亥 晴 当番 鑛司

一、角田市太郎左之願書差出候処即日御附札濟

相成候旨隊長高木林兵衛方被申聞候

私親類神奈川県御支配所相州

高座郡深谷村百性(姓)彦兵衛方迄

無拋用事御座候^ニ付往返三日立

歸御暇被下置候様仕度此段奉願候

以上

閏十月十三日 角田市太郎

一、角田市太郎願濟^ニ付明朝出立依之御暇乞

御詰所^江差出ス

閏十月十四日 子 晴 当番 喜一郎

一、澤田敬齊宅^江女客兩人当分逗留之旨届申出有之

承り置

閏十月十五日 丑 晴 当番 鑛司

一、今藏権大参事今日東京より着相成旨為心得萩原

唯右衛門被申聞候

一、澤田敬齊昨夕東京より帰着致候^ニ付右為御届

御詰所^江差出ス

一、今藏権大参事今夕着被致候事

閏十月十六日 寅 晴 当番 喜一郎

一、今日ドンタク^ニ付諸局詰無之

109才 一、角田市太郎昨夕深谷村ヨリ帰着^ニ付御届詰所^江

可差出処休日^ニ付御宅廻り^ニ而相濟候事

一、千葉喜太郎宅^江親類武家壱人兩三日逗留

為致候旨届申出有之承り置

閏十月十七日 卯 曇 当番 鑛司

一、今藏信吾家族引連船^ニ而昨夜至(到)着^ニ付右為御届

御詰所^江差出ス

一、角田市太郎東京表^江明朝出立^ニ付為御暇乞

御詰所^江差出候事

109才 一、明日九鬼様御夫婦并御子様方御出被進候旨右

^ニ付御門開門相成候様詰番少参事被申聞候尤

九鬼様は御中之口より御通り奥方様^ニは御庭

口より御通り相成候旨前同人被申聞候

右^ニ付開門之義御門衛^江相達ス

一、九鬼様俄^ニ今八半時頃御出相成候事

一、豊前豊津藩新以心流青柳彦十郎門人朝比奈七郎豊田

郁太郎豊津新田藩一刀流一圓鯨治門人大江虎之助

と申者剣術修行之趣^ニ而手合申込候^ニ付喜一郎鑛司罷出面

会致身分柄委細相尋候処聊疑敷者無之間其段大参事^江

申述夫より直^ニ準教師^江相達夕刻より稽古相始候事

一、静岡御藩米倉裕吉様今夕御出^ニ而直^ニ御内家^江御通相成候事

110才

閏十月十八日 辰 晴 当番 喜一郎

一、今昼後より白洲相立候^ニ付卒族兩人差出候様司農局より申出有之^一

則小頭^江相達

一、今藏信吾御藩地^江引移候^ニ付而は何れ之組^江御割入相成候哉隊長より相伺候処一ノ組長坂小平太組^江割入候様御差図相濟候旨隊長高木林兵衛方被申聞候

一、昨日罷越候劍術修行人朝比奈七郎豊田郁太郎大江

虎之助今朝稽古致昼後より当地出立いたし候依之御目錄金式百疋被下候

一、先般宿村博奕一件^ニ付式人入牢致居候処吟味濟之上

今日出牢申付候旨司農属より申聞有之候旨小監察萩原

唯右衛門方被申聞候

110ウ

一、今八時頃より 御奥様并九鬼様より御出之御客様御同道

^ニ而称名寺辺^江被為入候旨詰番小参事被申聞候依之御門

番人^江開門之義申付置

一、今藏良左衛門殿昨日拝領御長屋^江被引移候事

閏十月十九日 巳 晴 当番 鑛司

去十七日附落

一、織田從右衛門宅^江武家壱人四五日止宿為致候旨届

申出有之承り置

一、来十一月朔日ヨリ劍術寒稽古相始候旨準教師輔

三木柰之助申聞候

閏十月廿日 午 晴 当番 喜一郎

111才

一、今藏信吾織田從右衛門大久保仲諸願諸届等差出之義

以来準教師より差出候様御取究相成候旨萩原権小参事被申聞候

閏十月廿一日 未 晴 当番 鑛司

一、今日トシタク^ニ付参局無之

閏十月廿二日 申 晴 当番 喜一郎

一、今藏良左衛門殿宮尾定右衛門^江今日被成御逢候旨

^(朱書) 旨詰番小参事被相達候間△

被仰聞候間△其段当人^江相達候処無程服紗小袖麻上下着用罷出候間召連御宅^江罷出御逢相

濟候事

111ウ

閏十月廿三日 酉 晴 当番 鑛司

一、記事無之

閏十月廿四日 戌 晴 当番 喜一郎

一、記事無之

閏十月廿五日 亥 晴 当番 鑛司

一、今朝東京表^江才領付飛脚被差立右^ニ付又左衛門

可罷越処腹痛^ニ付惣十郎罷越候旨小頭林

七之助届申出候

一、野嶋思磨山口篤之進越ヶ谷領^江俄^ニ御向

有之明朝出立之旨尤被仰付も無之夫故御暇乞

等も無之旨為心得詰番小参事被申聞候

112才

一、宮尾定右衛門左之願書差出候旨申聞候間承り置

私義故宮尾文輔家名相統被 仰付

候ニ付養方菩提所東京青山龍岩寺

江墓參仕度且親類共^江も無^江抛用

事御座候ニ付罷越申度依之可相成

義御座候ハ、往返七日立帰御暇被下

置候様仕度此段奉願候以上

閏十月廿五日 宮尾定右衛門

一、大(太) 政官ヨリ之御触書老折川上大參事被成御渡候

間則廻章ヲ以御藩中^江相達ス

閏十月廿六日 子 晴 当番 喜一郎

一、宮尾定右衛門願濟ニ付明朝東京^江出立依之御暇乞

詰所^江可差出処休日ニ付御宅廻りニ而相濟候事

閏十月廿七日 丑 晴 当番 鑛司

一、野本権藏左之御届書及進達候旨高澤弥三郎

申聞候間承り置

私儀当九月下旬より風邪ニ付引込

宮川弁治薬服用仕候得共兎角

同篇ニ付田中玄悦転葉無油断

療養仕候得共今以疔と不仕近々

出勤可仕体無御座候尚又引込日数

も相成候ニ付此段御届申上候以上

閏十月廿七日 野本権藏

一、野寫思磨山口篤之進昨朝越ヶ谷領^江出立ニ付

卒族ニ而林七之助平ニ而岡田八太郎罷越候事

閏十月廿八日 寅 晴 当番 喜一郎

113ウ

一、下城元長左之願書差出候旨職頭山口喜平次方より被申聞有之承置

私娘儀相川徳三郎^江縁組仕度此段奉願候

以上

閏十月廿八日 下城元長

一、相川徳三郎左之願書差出候旨隊長高木林兵衛方被申聞候承置

下城元長娘私縁組仕度此段奉願候以上

閏十月廿八日 相川徳三郎

一、卒族大井惣十郎東京^江才領として罷越候処

昨朝東京出立同日此表着可致之処程ヶ谷宿^江罷越

候時分は夜ニ入候間無抛同宿へ一泊今朝致帰着候

旨届申出候

閏十月廿九日 卯 晴 当番 鑛司

一、長谷川良造昨夕東京表より帰着ニ付為御届御詰所^江

差出ス

一、下城元長相川徳三郎明朝日平服用御書付一折

川上大參事被成御渡候旨詰番中澤八十次方被

相渡候間則当人共へ相達候処何れも御請申聞候間

其段前同人^江申述置候

下城元長

相川徳三郎

右御用之儀有之間明朝日四時平

服ニ而参庁有之候様可被相達候

114ウ

114オ

113オ

112ウ

閏十月廿九日

一、野本民次郎左之願書差出候旨隊長高木林兵衛方
被申聞候

奉願候覺

私儀養子次郎義結構被 召出冥加

至極難有仕合奉存候然ル処不応心底

儀有之候間双方熟談之上離縁仕里

方^江差戻申度奉存候何卒此上之以

御慈悲首尾能永之御暇被下置候様

仕度此段奉願候以上

明治三庚午年閏十月廿九日 野本民次郎 印判

大参事

御中

一、今藏権大参事以来一等官御用向取扱来十一

月御同人御月番之旨川上大参事被仰聞候間

其段局々^江以廻状相達ス

一、来十一月分年月給共今日御渡相成候旨戸田

権大参事被 仰聞候間其段御藩中^江相達ス

十一月朔日 辰 雨 当番 喜一郎

一、下城元長相川徳三郎御用^ニ付罷出候間其段詰番^江

申述置無程於御書院二ノ間^ニ今藏権大参事

以御書付被 仰渡候

其方娘相川徳三郎^江

一、縁組為致度旨願之通

下城元長

被 仰付之

116才

下城元長娘其方縁

一、組致度旨願之通被

仰付之

一、右畢而御礼御詰所^江差出今藏権大参事謁之

一、柴田一郎方腫物^ニ付引込之御届申上候旨詰番萩原

萩原唯右衛門方被申聞候

一、窪田鑛太郎左之御届書差出候旨隊長中澤八十次方

被申聞候

私母儀東京表親類共迄無扱

用事有之候^ニ付罷越候処用弁

相濟昨日帰着仕候此段御届申上候

以上

十一月朔日

窪田鑛太郎

一、野本民次郎唯今平服御用之旨詰番小参事

被申聞候間則当人^江相達候処奉畏候旨御請申

出候間其段前同人へ申述置候

一、野本次郎へ左之御書付御渡^ニ付則当人^江相達候処

名代中川惣助差出候旨申越候間其段詰番へ申

述置候

野本次郎

右申渡義有之間唯今中之口^江

名代忝人差出候様可被相達候

117才

十一月朔日

一、野本民次郎御書院二ノ間ニおいて大参事衆

例(列)座小参事侍座当役出席今藏権大参事

以御書付被 仰渡候

其方養子次郎不応

心底義有之候間双方

一、熟談之上致離縁里

桎本民次郎

方^江差戻申度旨依之

願之通永之御暇被

下之

一、右畢而御札御詰所^江差出今藏権大参事謁之

117ウ

一、野本次郎名代中川惣助御中之口^江罷出居

少参事例(列)座当役出席詰番萩原唯右衛門

以御書付申渡之

其方養父民次郎義

不応心底儀有之候間

双方熟談之上致離

一、縁里方^江差戻度旨依

野本次郎

之民次郎願之通其方

名代

永之御暇被下之尤六

中川惣助

浦御陣屋東京両御邸

野州御分庁出入御支配所

徘徊被成御構候

118才

一、右畢而名代之者より当人^江申聞候処奉恐入候旨

御請申聞候間其段詰番へ申述置候

一、右之通野本次郎被仰付候^江付而は唯今為引払候旨野本

民次郎より届申出候旨伍長より申聞有之候旨隊長衆被申聞

候承^江

置

十一月二日 巳曇 当番 鑛司

一、記ス事無之

十一月三日 午晴 当番 喜一郎

一、大久保仲左之願書差出候旨隊長衆被申聞候承置

私拝領御長屋西之方^江自分入用ヲ以

118ウ

壱間^江三三之建足仕度奉存候尤御用之

節は元形仕可差上申候此段奉願候以上

十一月三日 大久保仲

十一月四日 未晴 当番 鑛司

一、茂呂次郎太郎左之御届書差出候旨小泉四郎

申聞候間承り置

私母義東京表親類共迄無扱

用事御座候^江付昨三日差遣申候

此段御届申上候以上

十一月四日 茂呂次郎太郎

119才

一、手塚謙之助左之願書及進達候旨中澤八十次方

被申聞候

私養母方伯父元静岡藩綱野

富吉義当時婦民仕日光県

御支配所下野国都賀郡汐澤

村罷在候処昨今重病之趣万

一之節は外ニ身寄之者無御座候

間跡々相談仕度旨昨夕飛脚

を以申越候ニ付可相成義御座候

ハ、罷越対面仕度依之往返

十四日御暇被下置候様仕度此段

奉願候已上

119ウ

十一月四日

手塚謙之助

一、手塚謙之助願濟ニ付明朝出立依之御暇乞詰所江罷出

申上之

十一月五日

申晴 当番 喜一郎

一、記事無之

十一月六日

酉晴 当番 鑛司

一、今日トシタクニ付参局無之

十一月七日

戌晴 当番 喜一郎

一、山口喜平治方腰痛ニ付引込御届被申上候旨御家扶恒岡碩五郎より申聞有之承置

一、下城元長左之御届書差出候旨御家扶恒岡碩五郎より申聞有之

120才

承置

私娘今日相川徳三郎方江差遣即日婚姻

為相整申候此段御届申上候以上

十一月七日

下城元長

一、相川徳三郎左之御届書差出候ニ付及進達候旨隊長中沢

八十次方被申聞候承置

下城元長娘今日私方江引取即日婚姻

相整申候此段御届申上候以上

十一月七日

相川徳三郎

一、小峰藤次郎宅江男客老人当分逗留為致候旨

届申出有之承り置

十一月八日

戌亥 晴 当番 鑛司

120ウ

一、野寫思磨御用向ニ付今朝野州領江致出立候

旨為心得増田小参事被申聞候尤御暇乞等

無之事

十一月九日

亥子 雨 当番 喜一郎

一、堀井庄左衛門野州表御分庁御用済ニ付昨夕帰着依之為

御届御詰所江差出

十一月十日

丑晴 当番 鑛司

121才

一、今日大参事衆御調用ニ付御不参之旨詰

番少参事被申聞候

一、宮尾定右衛門用弁済ニ付昨夕東京表より

帰着依之御届詰所江罷出申上之増田小参事

謁之

十一月十一日

寅晴 当番 喜一郎

一、今日トシタクニ付参局無之

十一月十二日

卯晴 当番 鑛司

121ウ

一、廣沢安右衛門左之願書差出候ニ付被及進達候旨詰番小参事被申聞候承置

可為願之通候

私儀惣髮罷成申度此段奉願候以上

十一月十二日

廣澤安右衛門

養母方祖母

母

一、御藩士族男女惣人数取調差出候様戸田権大参事被仰聞候間

左之通取調書差出

御藩士族男女惣人数調書

一、士族男女惣人数 三百三拾四人

内

勤仕人

百五人

但内

部屋住

式拾人

残男女

式百式拾九人

但内

来ル未ノ拾才以下 六拾三人

士族惣人数三百三拾四人之内

厄介

拾壹人

内

御扶持被下候分 式人

右之通御座候以上

庚午十一月十二日

十一月十三日 辰 晴

当番 喜一郎

122ウ

一、戸田鉄太郎左之御届書差出候_ニ付今藏権大参事_江被及進
達候旨隊長中沢八十次方被申聞候承置

鳥羽藩

小曾根 寛

123才

一、長谷川良造左之願書差出候_ニ付今藏権大参事_江被及進
達候旨隊長中沢八十次方被申聞候承置

十一月十一日

戸田鐵太郎

慮仕候此段御届申上候以上

右養祖母儀久々病氣之処養生不相叶去月
十二日酉ノ刻死去仕候段告越申候依之定式
之忌服受可申之処日数相立候_ニ付今一日遠

可為願之通候

私娘_江三味線稽古為仕度此段奉願候以上

十一月十三日

長谷川良造

一、太政官より之御布告書式通今藏権大参事被成御渡候間則以

廻章御藩中_江相達

一、明後十五日

八幡宮御祭礼_ニ付如恒例之取計方夫々可相達旨萩原権小参

事被申聞候

一、右_ニ付明十四日より 八幡宮_江御宮番壹人罷出候様卒族小

頭_江

相達ス

123ウ

一、明十五日

十一月十四日 巳 晴

当番 鑛司

八幡宮御祭礼_ニ付御藩之面々一同服紗小

袖麻上下着用四時相揃御神事濟恐悦可申

上旨右_ニ付御赤飯被下置候旨今藏権大参事

被仰聞候間其段以廻章相達ス

十一月十五日 午 晴 当番 喜一郎

一、八幡宮御祭礼^ニ付今朝卯之刻左之面々服紗小袖麻上下着用
罷出^一

124才

御献供御手長^ニ而無御滞相濟畢而

御代□(拜力)今蔵権大参事被相勤候

一、御奥様御代拜増田小参事被相勤候

知事様

御初穂

一、金 五拾匹

欽若様

御初穂

一、金 五拾匹

御奥様

御初穂

一、金 五拾匹

右御備相成候事

御月番

権大参事

今蔵良左衛門殿

御出席計

小参事

増田朔右衛門方

権小参事

萩原唯右衛門方

監察属

伊藤喜一郎

営繕司僕

萩原文之進

高澤弥十郎

庖厨雑事

大洞定市

営繕司僕属

森川才助

外^ニ

局掌三人

但局掌は御手長相勤不申候事

一、大小参事丈は是迄熨斗目着用之処今年より廃止相成候事

125才

一^後 御藩御内家之面々服紗小袖麻上下着用一統四時相揃御詰所^江

罷出御神事済恐悦并御赤飯頂戴之御礼申上之

若殿様^江も御同様申上之

一^前 社人柳田速見罷出於 御神前神楽奏之当役出席之事

右相済御目録并御赤飯被下候同人義右頂戴之御礼申上候間

其旨^一

詰番小参事^江申述候

一、卒族一同^江御赤飯被下置候間配下之御礼小監察萩原唯右衛

門方^一

御詰所^江罷出被申上候

一、下僕一同并御出入町人諸職人^江御赤飯被下置候^ニ付配下之

御札として」

萩原文之進御詰所_江差出

一、明十六日

八幡宮御神酒御供物被下置候間諸局当番之面々平服_ニ而四時

相揃頂戴候様御月番今藏権大参事被仰聞候間其段以廻章

御藩中_江相達

一、明十六日曉八時寒入_ニ付御藩之面々明日より三日之内_ニ罷

出御機嫌」

相窺候様是又前御同人被仰聞候間則以廻章御藩中_江相達

一、知事様今四時之御供揃_ニ而

八幡宮_江被成 御参詣候

十一月十六日 未 晴 当番 鑛司

一、諸局当番之面々平服_ニ而四時罷出於御書院_ニ之間_ニ

八幡宮御神酒御供物頂戴之畢而為御札御詰所_江差出ス

一、今曉寒入_ニ付御藩御内家之面々一統四時相揃御詰所_江罷出

奉窺 御機嫌候事

十一月十七日 申 曇 当番 喜一郎

一、下城元長吉田周悦沢田敬齊寒中為御機嫌伺御詰所_江

差出ス

一、明十八日中之酉之日瀬戸明神祭礼_ニ付例之通為見廻卒

族御差出被下候様神主千葉太直雄より社人柳田速見を以

願出候_ニ付其段御月番今藏権大参事_江申上候

一、明十八日瀬戸明神祭礼_ニ付為町場見廻り卒族小頭壱人平

兩人差出候様御月番大参事被仰聞旨詰番小参事被相達候

候間則小頭_江相達

一、明十八日瀬戸明神祭礼_ニ付例之通今夜五時卒族小頭

林七之助下僕壱人召連明神宮境内見廻候処別条無之旨

罷届申聞候

一、_(朱書)今十七日田中玄悦寒中窺御機嫌罷出候_ニ付御詰所_江差出呉

候様山口篤之進」

当局_江申出候間右之段小参事_江申述ル右は昨明治_ニ己巳年

十一月八日御藩」

御変革之節 一御支配所内格式之者御出入医師之類取扱都

而司農局_ニ而可仕」

候事と被 仰出も有之候処其後も兎角区々_ニ相成居何分不

都合_ニ付既_ニ今日」

之処_ニ而睨と御取究相成候様当番喜一郎より申述候処御支

配所村方之者ハ自今」

司農局_ニ而都而取扱可然條旨被申聞候間則山口篤之進_江右

之段相達候事」

一、瀬戸明神祭礼_ニ付明十八日諸局トシタク之旨今藏権大参事

被仰聞候間其旨以廻章御藩中_江相達

一、臨時トシタク之節は自今監察局より御藩中_江廻達および候

様御取極」

相成候事

一、高沢弥三郎病氣_ニ付引込御届申上候旨職頭より申聞有之承置

127ウ

十一月十八日 酉 雨 当番 鑛司

一、今日瀬戸明神祭礼_ニ付卒族小頭林七之助平_ニ而岡田八太郎

加藤健次郎例之通為見廻罷出候処無滞相濟夕七時頃罷歸り
届申出候

一、今夕千葉太直雄名代佐野小平太罷出今日三嶋明神宮
神事無滞相濟候旨且例年之通卒族御差出被下難有之旨
為御礼監察方役宅^江罷出

一、手塚謙之助用弁済^ニ付昨夜帰着^ニ付今日為御届御詰所^江
可罷出之処今日ドンタク^ニ付御宅廻^ニ而相濟候事

十一月十九日 戌 晴 当番 喜一郎

128才 一、手塚謙之助寒中為御機嫌伺御詰所^江差出

十一月廿日 亥 曇 当番 鑛司

一、大(太)政官より之御触書^一折今蔵権大参事被成
御渡候間以廻章御藩中^江相達ス

十一月廿一日 子 晴 当番 喜一郎

一、松田長蔵心得違之儀有之^ニ付慎罷在候様御家
扶恒岡碩五郎^江相達候旨大参事衆被仰聞候旨
萩原唯右衛門方被申聞候

128ウ 一、濱野八十人宅^江親類共男客^一止宿被致候旨

届申出候

十一月廿二日 丑 曇 当番 鑛司

一、記事無之

十一月廿三日 寅 曇 当番 喜一郎

一、今朝東京^江飛脚被差立候^ニ付為宰領布川又左衛門可罷出之
処足痛^ニ付

為代り加藤健次郎出立之事

一、昨夕野嶋思磨野州御分庁御用済^ニ付帰着致候

一、野嶋思磨寒中為伺御機嫌御詰所^江差出ス

129才 一、大洞定市左之願書差出候旨職頭より申聞有之承り置
小田原藩 森 晴兵衛

娘

右晴兵衛娘私縁組仕度此段奉願候
以上

十一月廿三日 大洞定市

一、茂呂次郎太郎左之御届書局掌小峯藤次郎を以差出候旨
詰番小参事被申聞候承置

私母儀東京表親類共迄無扱用事有之
候^ニ付先達罷越候処用弁済昨夕

帰着仕候此段御届申上候以上

十一月廿三日 茂呂次郎太郎

129ウ 一、角田市太郎宅^江親類共男客^一泊為致候
旨届申出候間承り置

十一月廿四日 卯 雪 当番 鑛司

一、記事無之

十一月廿五日 辰 曇 当番 喜一郎

一、記事無之

一、一昨廿三日東京^江出立之飛脚宰領加藤健次郎今夕戻ル
十一月廿六日 巳 晴 当番 鑛司

130才 一、今夕左之御書付式通大参事衆御渡之旨^ニ而詰番

小参事被相渡候間則相達候処長蔵名代飯田繁三郎
差出候旨申越無程飯田繁三郎松田常太郎罷出候間
其段詰番へ申述置

松田長蔵

右御用之儀有之間唯今御聴(庁力)^江

平服^ニ而名代忝人差出候様可被相達候

松田常太郎

右御用之義有之間唯今御聴(庁力)^江

平服^ニ而罷出候様可被相達候

一、松田長蔵名代飯田繁三郎松田常太郎於

130ウ

詰所今蔵権大参事以御書付被 仰渡候

御家従助被成

一、御免候東京牛込御邸

松田長蔵

^江両三日中可致出立候

一、局掌御雇被成

松田常太郎

御免候

一、右畢而何れも御詰所^江差出ス

一、忝田長蔵義両三日中と被仰付候へ共廿九日迄^ニは是

非々々出立致候様大参事被仰聞候旨詰番被申聞候

候^マ其段名代之者^江相達ス

一、左之御書付御月番大参事衆被成御渡候間例之通り

御藩中^江相達ス

131才

当暮御藩一同餅米御貸不被下^マ餅当主忝

斗部屋以下家族忝人五升ツ、迄は御有合

餅米を以御扶持米之内^江込梗之代り^ニ御渡可被

下候間願候向は員数倉廩方^江可申出候尤右餅

米高来二月分御扶持米之内^ニ而一時^ニ差引候事

十一月廿七日 午 晴 当番 喜一郎

一、黒川文右衛門左之願(御届)書差出候旨職頭より被申聞承置

私儀及年来未男子無御座候^ニ付養子

可奉願候処相応之者無御座追而相応

之者御座候は可奉願候先此段御届

申上候以上

131ウ

十一月廿七日

黒川文右衛門

一、佐藤忠蔵殿御用向^ニ付明朝東京^江出立致候旨為心得

詰番小参事被申聞候

十一月廿八日 未 晴 当番 鑛司

一、桮本権蔵左之御届書及進達候旨宮川弁治申聞候間

承り置

私儀当九月下旬より風邪^ニ付引込宮

川弁治薬服用仕候得共兎角同篇

^ニ付田中玄悦^江無^マ転薬無油断療

養仕候へ共今以聡と不仕近々出勤

可仕体無御座候尚又引込日数^ニも相

成候間此段御届申上候以上

132才

監察^江

十一月廿八日

野本権藏

十一月廿九日 申 曇 当番 喜一郎

一、松田長藏家族召連今暁七半時頃東京江致出立候旨飯田
繁三郎より届申出候間其段詰番小参事江申述置候

十一月晦日 酉 晴 当番 鑽司

一、来月分年月給唯今御渡相成候旨戸田

吾一殿被仰聞候間其以廻章御藩一同江相達ス

132ウ

一、左之御剪紙大参事被成御渡候旨三而詰番少

参事被相渡候間則当人共江相達ス

御用之儀有之間明朔日

四時参庁可被有之候以上

十一月晦日

戸田吾一

今藏良左衛門

川上澹二

新倉新殿

野嶋思磨殿

山口篤之進殿

133才

筧原多一殿

中井新三郎殿

伊藤喜一郎殿

関根鑽司殿

宮川弁治殿

今藏信吾殿

恒岡碩五郎殿

133ウ

濱野八十人殿

茂呂郡兵衛殿

長坂小平太殿

高嶋省三郎殿

石川兵助殿

萩原文之進殿

高澤弥十郎殿

金子恒五郎殿

三木李之助殿

河合修輔殿

下城元長殿

吉田周説殿

澤田敬齊殿

新倉祿三郎殿

津田多宮殿

幸嶋徹造殿

河合宇三郎殿

川上太郎殿

前田國忝殿

佐藤謙司殿

高澤弥三郎殿

野本権藏殿

山田松之助殿

宮尾定右衛門殿

134才

134
ウ

織田從右衛門殿

大久保仲殿

飯田繁三郎殿

黒川文右衛門殿

大洞定市殿

森川才助殿

窪田鑛太郎殿

相場三弥殿

坂田伴助殿

手塚謙之助殿

長谷川良造殿

戸田鍊太郎殿

柴田一郎殿

安藤修太郎殿

大嶋源三郎殿

野本民次郎殿

野本鋌之助殿

松本鉦三殿

織田福之助殿

藪田定之丞殿

河合寛次郎殿

立川源五郎殿

藤澤元二郎殿

相川徳三郎殿

135
ウ

都筑鍾之助殿

下城達次郎殿

濱野銀太郎殿

中川惣助殿

廣澤安右衛門殿

茂呂鑑三郎殿

前田弥助殿

相川庄九郎殿

関根半平殿

筧原治助殿

堀井庄左衛門殿

大串新平殿

千葉喜太郎殿

小峯藤次郎殿

須田鑄次郎殿

小泉四郎殿

尚々病氣之面々は名代可被差出候以上

136
才

一、御請之義は多人數之事故職頭々々より詰所^江罷出
御請申上候事

十二月朔日 戌 晴 当番 喜一郎

一、今日御用召之面々一同罷出候ニ付其段詰番小参事^江申述

一、高沢弥三郎野本権藏引込中ニ付高沢弥三郎名代山田松之助

野本権藏名代宮尾定右衛門関根半平篠原治助廣沢

安右衛門当病ニ付関根半平名代大串新平篠原治助名代

飯田繁三郎廣澤安右衛門名代中川惣助罷出候旨夫々名代之者より申出候間其段書面を以詰番小参事^江申述

136ウ

一、御藩之面々小参事始御内家局掌^ニ至迄御書院一之間

御敷居際より式之間^江一同並居川上大参事今藏権大参事

戸田権大参事御列座^ニ而川上大参事御書付ヲ以左之通被仰渡

今般徒

朝廷藩制被

一、仰出候^ニ付一同是迄之等級廢止職掌

解官給禄奉還被

仰付候事

右被仰渡有之一同退引無之直様増田朔右衛門方より御請被

申上^レ

候畢而退引之事

137才

一、無程

知事様御書院一之間^江御出座大参事大属権大属出席

御役名披露左之通 御直^ニ御書付ヲ以被 仰渡左之通

一、任大属可為参事関係 増田朔右衛門

一、任司令官 高木林兵衛

一、任権大属可為参事 柴田又右衛門

関係

一、任権大属可為會計

中澤八十次

関係

137ウ

一、任権大属可為監察

萩原唯右衛門

刑法関係

一、任権大属可為民政

野嶋思磨

社事(寺)之事関係

一、同文言

山口篤之進

^(朱書)是ヨリ以下御書付は増田朔右衛門方 御前より

下ケ^レ

当人^江渡ス

一、任少属可為参事関係

新倉 新

一、助教医員宣教使如旧

宮川辨治

一、劍術準教師如旧

今藏信吾

劍術準教師如旧任嚮導

一、可為器械彈藥等之事

濱野八十人

関係

138才

一、劍術準教師如旧
御家廟直掌如旧

茂呂郡兵衛

銃隊調練準教師如旧副
一、司令相心得可為器械彈
藥等之事關係

長坂小平太

138ウ
一、任嚮導可為器械彈藥
等之事關係

石川兵助

一、参事史生兼庁掌

篠原多一

一、監察刑法

伊藤喜一郎

一、同文言

關根鑛司

一、劍術準教師輔如旧監察
刑法

高嶋省三郎

139才
一、營繕司僕庖厨雜事

萩原文之進

一、營繕司僕倉廩

高澤彌十郎

一、倉廩庖厨雜事

金子恒五郎

一、倉廩執籌

三木空之助

一、執籌庖厨雜事

河合脩輔

右 任權少属所関如書面之

139ウ
一、参事

長谷川良造

一、民政

中井新三郎

右 任史生所関如書面之

一、句読師如旧

川上太郎

一、同文言

前田國松

銃隊調練準教師補(輔)如旧

一、副嚮導心得可為器械
彈藥等之事關係

大久保仲

140才
一、参事

相場三彌

一、民政

河合宇三郎

右 任史生一等附屬所関如書面之

一、任句統(読)師附屬

佐藤謙司

一、任学校館掌

新倉祿三郎

一、任学校館掌自今

山田松之助

下祿士族給被下之

医員如旧可為準大初位
但格通之事

澤田敬齊

140ウ

一、任学校館掌御雇如旧

幸島徹造

自今下祿士族給被下之

141ウ

一、任予備兵隊嚮導

織田從右衛門

一、御家從被

黒川文右衛門

仰付之

手塚謙之助

御家從被

坂田伴助

一、仰付之御家扶助可相勤

候

常備兵隊被

一、御家從被

手塚謙之助

一、仰付之鏈之助達次郎

仰付之

所関如書面之

右畢而被成 御入候事

141才

一、仰付之鏈之助達次郎

窪田鑛太郎

142才

一、於御書院二之間大參事衆列席川上大參事御書付を以

大洞定市

被仰渡左之通尤大属権大属少属侍(侍)座当役出席之事

吹手

下城達次郎

吹手

都筑鏈之助

茂呂鑑三郎

濱野銀太郎

森川才助

下城元長

吉田周悦

一、予備兵隊被
仰付之

御雇如旧

津田多宮
松本御三
大串新平
千葉喜太郎
小峯藤次郎
相川庄九郎

一、使部被
仰付之

藤沢元次郎
小泉四郎
宮尾定右衛門
前田彌助

一、自今上禄卒編入被
仰付之可為非役

廣澤安右衛門

一、自今下禄士族給被下之

宮尾定右衛門

一、末席被成 御免候

前田彌助

一、御家令如旧

山口喜平治
名代 柴田又右衛門

一、御家扶如旧

恒岡碩五郎

一、御家從既掌如旧

飯田繁三郎

一、御家扶助被

堀井庄左衛門

仰付之

上禄卒編入被

一、仰付之可為非役尤御門

中川惣助

衛可相勤候

關根半平

名代 大串新平

篠原治助

名代 飯田繁三郎

一、可為非役士族

高澤彌三郎

名代 宮尾定右工門

野本權藏

名代 山田松之助

御門衛如旧

御門衛如旧

須田鑄次郎

一、右畢而助教宮川辨治より御内家一同非役須田鑄次郎_三至迄
御請御礼として御詰所_江差出ス

一、津田多宮唯今平服御用之旨川上大参事被仰聞候旨増田

大属被相達候^ニ付則当人^江相達候処奉畏候旨御請申上候間
其段前^一

同人^江申述無程御詰所^ニおいて川上大参事御書付ヲ以被仰
渡左之通

一 飯田繁三郎北隣(隣) 御長屋 津田多宮
式間被下之

右畢而御請御礼として御詰所^江差出

一、今般御藩制相改候^ニ付而は御門下座之義自今正権大参事

^ニ限候旨御取究相成候間其段小卒族小頭^江相達尤萩原唯右
衛門方^一

支配之義故是迄之通下座有之候事

144ウ 一、役々出局刻限之義自今正五時^ニ出局正九時退引と御取究相成
候事

十二月二日 亥 曇 当番 鑛司

一、記事無之

十二月三日 子 晴 当番 喜一郎

覚

田宮流劍術

中免

右は去月晦日茂呂郡兵衛より受申候此段

御届申上候以上

十二月三日 相川徳三郎

覚

145才

田宮流劍術
目録

右は去月晦日茂呂郡兵衛より受申候此段
御届申上候以上

十二月三日 河合宇三郎

覚

堤宝山流劍術

必勝

右は去月晦日武藤権之助より受申候此段

御届申上候以上

十二月三日 高畠省三郎

145ウ

覚

堤宝山流劍術

必勝

右は去月晦日濱野八十人より受申候此段

御届申上候以上

十二月三日 大久保仲

右同断 高澤彌十郎

右同断 大畷源三郎

右同断 森川才助

146才

覚

堤宝山流劍術

前太刀目録

右は去月晦日濱野八十人より受申候此段

御届申上候以上

十二月三日

都筑鏈之助

覚

堤宝山流劍術

必勝

右は去月晦日今藏信吾より受申候此段

御届申上候以上

146ウ

十二月三日

濱野銀太郎

右何れも免シ受候旨当人より申聞有之候間承置

一、津田多宮左之願書差出候ニ付及進達候旨職頭織田從右衛門

より

申聞有之承置

私拝領御長屋自分入用ヲ以裏通式間_江

壺間之口并壺間_三三尺之窓明申度尤御

用之節は元形仕差上可申候此段御届

申上候以上

十二月三日

津田多宮

一、長谷川良造左之御届差出候旨当人より申聞有之承置

147才

覚

堤宝山流劍術

一、前太刀目録

右は去月晦日私悴武造儀濱野八十人より

受申候此段御届申上候以上

十二月三日

長谷川良造

一、茂呂次郎太郎義御扶助ニ而九才以下ニ候間今般御藩制被

仰出も有之候ニ付当人御扶持被下之義如何相成候哉萩原

権大属より川上大参事_江相伺候処右は当主_三而九才以下

之者_江は壺人口被下候事ニ御達相成候事

十二月四日

丑 晴

当番 省三郎

一、恒岡碩五郎飯田繁三郎坂田伴助手塚謙之助下城元長

唯今平服御用之旨川上大参事被 仰聞候旨柴田権大属

被 相達候ニ付当人_江相達候処奉畏候旨御請申上候間

其段前同人_江申述無程御書院二ノ間ノ御振合ニて於参事局

川上大参事御書付ヲ以被成 御渡左之通り

御朝集之節

一、御供被

格通

仰付之

恒岡碩五郎

御朝集之節

飯田繁三郎

一、御供被

坂田伴助

仰付之

手塚謙之助

148才

御朝集之節

一、御供被

格通

仰付之

下城元長

右畢而御請御礼として参事局^江差出ス

一、左之御書付川上大参事御渡被成候間御藩^江以廻章相達ス

監察局^江

知事様兼而御布告之通り

御朝集^ニ付来ル廿二日 御発駕被成候事

庚午十二月

右之趣可 相達候

一、澤田敬齊宅^江男女兩人止宿為致候旨昨日届有之承り置

十二月五日 寅 晴 当番 鑛司

一、佐藤権大参事御用濟^ニ付昨夕東京より帰宅被致候事

一、黒川文右衛門風邪^ニ付引込御届申上候旨職頭之者より届申聞有之承置

一、関根鑛司手塚謙之助唯今平服用之旨川上大参事

被 仰聞候旨新倉少属被 相達候^ニ付当人^江相達候処

奉畏御請申上候間其段前同人^江申述無程御書院^二ノ間之

御振合^ニ而於参事局川上大参事御書付ヲ以被成 御渡左之通

以当官

一、御朝集之節御供被

関根鑛司

仰付之御内家兼可

相勤候

一、御朝集之節御供

手塚謙之助

御免被成候

右畢而御請御礼として参事局^江差出ス

一、山口喜平次左之願書差出候^ニ付及進達候旨恒岡碩五郎

より申聞有之候間承り置

私儀去月上旬ヨリ胸痛^ニ付引込宮川

辨治薬服用仕候処追々快方^ニは相

成候得共疲勞後之儀^ニ付月代刺(剃) 近所

歩行試候ハ、可然旨辨治申聞候依之

可相成儀御座候ハ、歩行試候上出勤

仕度此段奉願候以上

十二月五日 山口喜平次

一、関根鑛司以当官 御朝集之節御供被 仰付御内家兼

可相勤様被 仰付候^ニ付同人勤向之処何れ^ニ可相心得哉之旨 萩原権大属より大参事^江被相伺候候処右は御家扶助御家

従も可相勤候様被仰聞候就は即日御内家^江御用向も有之候^ニ付

当局之御用差向候義も無之候ハ、日々出局は致不申候事

十二月六日 卯 晴

一、ドンタク^ニ付参局無之

一、今般御藩制御変革相成候^ニ付而は是迄之通当局之処

当番と申事廢止日勤之事^ニ可心得旨大参事被仰聞候

乍併全同勤申合^ニ而当番之心得ヲ取極其日之御用都而

取扱候事

一、角田市太郎隣家小峯藤次郎より左之御届書差出候隊長 士令官高木林兵衛方被申聞候承り置

149才

150才

角田市太郎母儀相州深谷村親類共^江

無扱用事有之候^ニ付昨五日罷越申候市太良

留主中^ニ付此段私より御届申上候以上

十二月六日 小峯藤次郎

- 150ウ
- 一、宮尾定右衛門実悖稻生常吉当分逗留為致候旨同人より届申聞候間承置

- 一、山口喜平治病氣快方^ニ付

十二月七日 辰 曇

- 一、山口喜平治病氣快方^ニ付今日より出勤之旨申聞有之承り置
- 一、手塚謙之助眼病^ニ付引込御届申上候旨御家扶恒岡碩五郎より申聞有之承置

- 151才
- 一、知事様御参府之上は左之通飛脚定日御取極相成候^ニ付御書付面川上大参事被成御渡候間則御藩中^江以廻章ヲ相達候

監察^江

- 一、飛脚定日

東京より 十五日

六浦より 廿九日

右之通飛脚被差立候事

庚午十二月

- 一、於野州表小安宮渡左之御届書差出候旨詰番増田大属被申聞候承置

私妻儀今廿一日卯之下刻出産男子出

151ウ 生仕候依之来ル廿七日迄産穢罷成申候

此段御届申上候以上

十二(十一カ)月廿一日 小安宮渡

- 一、堀井庄左衛門明八日平服御用御書付一折川上大参事被成御渡候旨柴田大属被相渡候間則当人^江相達候処奉畏御請申聞候間前同人^江申述置

十二月八日 巳 雨

- 一、堀井庄左衛門御用^ニ付罷出候間其段参事局^江申述置無程於同局川上大参事以御書付被

- 152才
- 一、仰渡候畢而御請御礼同局^江差出川上大参事被謁之

一、来未年御年男 堀井庄左衛門

被 仰付之

- 一、黒川文右衛門病氣全快^ニ付明九日より出勤仕候旨御家令山口喜平治申聞候間承り置

十二月九日 午 曇

- 一、軍務局規則書司令官より差越候間写置

今般御藩制御規則被 仰出候^ニ付

御支配所内非常出火御人数出之

御備は一ノ組より三ノ組迄一ト組ツ、

当番相立置速^ニ出張可被致候其余は

兼而被 仰出之通裏御門内^江相詰可被

申候組分性(姓)名左之通り

一ノ組

窪田鑛太郎

153
才

安藤修太郎

野本鋌之助

相川徳三郎

茂呂錦三郎

森川才助

津田多宮

千葉喜太郎

大井惣十郎

二ノ組

戸田鉄太郎

大嶋源三郎

織田福之助

立川源五郎

下城達次郎

松本柳三

小峯藤次郎

岡田八太郎

三ノ組

柴田一郎

河合覺次郎

大洞定市

都筑鏈之助

濱野銀太郎

大串新平

154
才

相川庄九郎

加藤健次郎

但出張之節嚮導副嚮導予備嚮

導^ニ而耄人ツ、一ト組へ付添出張可被致候

且纏水ノ手番は兼而被 仰付置候六名

^ニ而可被相心得候事

一、毎夜非常廻りハ常予兵隊^ニ而可被相勤候事

但毎年十月朔日より翌年三月

晦日迄書面組合卒も同断勤之且

出火之節卒ハ出張無之事

一、願伺届等常備兵隊は嚮導^江差出予

備隊は予備嚮導^江差出之惣而司令

官^江可被差出候事

右之通り差向伺相済候条御達申候也

庚午十二月

一、宙尾走右衛門左之御届書藤澤元二郎ヲ以差出候間承り置

私悻恒吉儀東京表親類^江預置候

処去ル木田罷帰候間此段御届申上候以上

十二月九日

宙尾走右衛門

十二月九日 未 曇

一、右之御届書今日之処は萩原権大属より及進達候事

一、左之御書付川上大参事被成御渡候間則以テ廻章

御藩中^江相達ス

監察^江

153
ウ

御藩御趣意書追加

身分進達并願伺届進達方

關係左之通

155才

一、医員は学校職頭

一、非役士族上禄卒は監察

一、使部は士族或は卒より出候無差別

当分参事大少属

庚午十二月

右之趣可被相達候

一、宮尾定右衛門左之御届書前田弥助ヲ以差出候間承り置

私悴恒吉義東京表親類共^江

預置候処昨九日罷帰候間此段

御届申上候以上

十二月十日

宮尾定右衛門

155ウ

一、太政官より之御達書写式通川上大参事殿被成御渡

候間判任從九位迄之面々^江以廻章相達候御書付左

之通
監察^江

明治三庚午年十月太政官より御渡御書付

写二通

元旦

天長節両辰府藩県貫属士族之拜

賀其長官^ニ而相受可申事

但不及言上候事

庚午十月

太政官

156才

地方官 朝賀規則元旦天長節右両辰

勅任ハ一員一紙奏任ハ一紙連署^ニ而賀表ヲ

上ルベシ判任長官相受一紙^ニ認言上可致事

但奏任以上在京之輩ハ参

朝拝賀其他出張之官員は本文之振合

ヲ以其庁^江可差出候事

庚午十月

太政官

右之趣可被相達候

庚午十二月

判任從九位迄左之呈書差出

用紙

裏白粘入 謹奉賀

四ツ折 新正

上包

美濃紙折掛 正月元日 少参事より

賀表と認 庁掌迄性(姓)名

一、今般御藩人別明細^ニ取調候様川上大参事殿被仰聞候間

明十一日第十二字迄^ニ差出候様別紙雛形相添大参

事始御藩一同御内家^ニ至迄以廻章相達候

一、今夕須藤又作御用向^ニ付東京より罷越至(到)着之旨当局^江

届有之候事

十二月十一日 申 晴 当番

157才 一、明十二日五ツ時公解局々御煤払之旨庁掌方より案内

有之候間下卒^江非番向も一統罷出候様相達ス

十二月十二日 酉 晴

一、今日五ツ時より出局四ツ時頃迄^江局々御煤払無御滞相濟候

一、須藤又作明曉東京表^江出立^江付為御暇乞参事局^江

差出ス

一、知事様御書院一ノ間^江御出座御書付ヲ以御直^江被

仰含川上大参事出席

依藩制被

一、仰出免司農分務掌

今藏良左衛門

務如職員令

大参事ヨリ達

157ウ

従前之等級御廃止給禄御改革^江而

被下相当表之通可被相心得候

藩制被

仰出官員減少之

一、御趣意も有之^江付

戸田吾一

解官及 奏聞依而

被免本官候

^(朱書)朝廷より御渡書

戸田六浦藩権大参事

158才

免 本官

庚午十二月

大(太)政官

任少参事御旨も

一、有之^江付如旧惣務

右同人

参判尤會計監察

形(刑)法課可致専掌候

大参事ヨリ達

御内家御用如旧

一、従前之等級御廃止給禄御改革^江而被下

相当表之通可被相心得候

一、惣務参判^江付大参事同座之事

158ウ

藩制被

仰出官員減少之

一、御趣意も有之^江付

佐藤忠藏

解官及 奏聞依而

被免本官候

^(朱書)朝廷より御渡書

書

佐藤六浦権大参事

免 本官

庚午十二月

159才

太政官

任少参事御旨も

一、有之^ニ付如旧物務参 右同人

判尤民政学校課

専掌可致候

大参事ヨリ達

従前之等級御廃止給禄御改革^ニ而

被下相当表之通可被相心得候

一、惣務参判^ニ付大参事同座之事

右御直^ニ被 仰含

159ウ

一、萩原唯右衛門只今平服御用之旨川上大参事被 仰聞候旨

参事詰番増田大属相達候段申聞有之無程於

御詰所川上大参事御書付ヲ以被 相渡左^ニ

学校下^江御取建相成候

一、御長屋之内東之端三間 萩原唯右衛門

被 下之是迄之御長屋

就御用可差上候

右畢而為御請御札参事局^江罷出候段詰番増田

大属より申聞有之

一、宮川辨治長坂小平太立川源五郎大洞定市森川

才助宮尾定右衛門高澤弥三郎只今平服御用之旨

川上大参事被 仰聞候旨増田大属被 相達候間

当人^江相達候処奉畏候旨御請申上候間其段前同人^江

申述無程於御詰所川上大参事御書付ヲ以被 仰渡左^ニ

160才

学校下^江御取建相成候

一、御長屋之内西ノ端式間 宮川辨治

被下之是迄之御長屋

就て御用可差上候

学校下^江御取建相成候

一、御長屋之内西より三軒目 長坂小平太

三間被下之是迄之御長屋

就御用可差上候

160ウ

学校下^江御取建相成候

一、御長屋之内東より三軒目 立川源五郎

式間半被下之是迄

之御長屋就御用可差上候

学校下^江御取建相成候

一、御長屋之内西より式軒目 大洞定市

式間被下之是迄之御長屋

就御用可差上候

被 下之

一、大洞定市跡御長屋九尺 森川才助

被 下之

被 下之

一、立川源五郎跡御長屋

161才

宮尾定右衛門

式間被下之

学校下^江御取建相成候

一、御長屋之内東より式軒目 高澤弥三郎

式間半被下之是迄之

御長屋就御用可差上候

右畢而為御請御礼参事局^江差出川上大参事被謁候

一、判任之面々姓名至急差出候様川上大参事被

仰聞候間其段判任之面々^江廻章ヲ以相達ス

161ウ 一、当局御預り三匁五分玉ノ和御筒三挺司農野嶋思磨方^江

可相渡旨今藏権大参事被 仰聞候間同人^江相渡ス

一、監察局是迄御書院二ノ間書物等不都合^ニ付萩原

権大属より大参事方^江被申立御書院一ノ間御入側^江

移局之事

一、手塚謙之助只今平服御用之旨川上大参事被仰聞候旨

詰番柴田権大属被 相達候間当人^江相達候処同人病

氣引込中^ニ付為名代坂田伴助罷出奉畏候旨御請申上候間

其段前同人^江申述無程御書院二ノ間ノ御振合^ニて於御詰所

川上大参事御書付ヲ以被 仰渡左^ニ

一、御家従 手塚謙之助

御免非役士族被仰付之

162才 右畢而為御請御礼参事局^江差出川上大参事被

喝(謁カ)之

一、萩原唯右衛門左之願書差出候^ニ付及進達候旨

私拝領之御長屋自分入用ヲ以表方^江

三尺^ニ九尺之庇東之方^江壹間^ニ式間之

下屋差出申度奉存候尤御用之節は

元形^ニ仕差上可申候可相成儀

御座候ハ、此段奉願候以上

十二月十三日

萩原唯右衛門

162ウ 一、御門下座書御渡相成候間御門衛中川惣助^江相渡候

下座左之通

下座

川上大参事

今藏権大参事

宇田権大参事

戸田少参事

佐藤少参事

少参事補

河田大属

以上

庚午十二月

163才 一、当年年月給相場違今八時御渡相成候旨會計中沢八十次申聞

候間則以廻章御藩中^江相達候

十二月十四日 亥 晴

一、諸願諸届諸伺等都而進達事職頭之者差出候節は其

同局之勤史(仕)先筆頭之者より大参事^江及進達候様御取究

相成候事

一、今日劍術稽古修業ニ付一同第十一字より塩濱江罷越野試合
有之候依而 知事様御覽被為在候事右無滞相濟
第五字之頃一同退散いたし候

十二月十五日 子 晴

163
ウ

一、左之名官名之分ニ候間御藩之面々以来左之名相附候
儀不相成候間差合有之候向は至急ニ改名致候様川上大参
事被成御達候間則廻章以御藩中江相達候

何左衛門

何右衛門

何兵衛

何之助

介

輔

何之照(マ)

何之進

右不相成候事

164
才

一、萩原唯右衛門左之願書差出候間伊藤喜一郎より川上大参事江
及進達候処御落手相成候事

唯作

雙

唯作と改名可被申候

右兩名之内改名仕度此段奉願候以上

十二月十五日

萩原唯右衛門

良治

164
ウ

良治と名改可被申候

右兩名之内改名仕度此段奉願候以上

十二月十五日

今藏良左衛門

良作

茂シゲリ

朔ハジメ

茂と名改可被申候

同 文言

増田朔右衛門

相造

相一

相造と名改可被申候

同 文言

柴田又右衛門

篤

篤治

篤と改名可被申候

同 文言

山口篤之進

文友

文カザル

文友と改名可被申候

同 文言

萩原文之進

栄と改名可被申候

同 文言

榮

森シゲル

三木李之助

165ウ

脩と改名可被申候

右同文言

河合脩輔

登

脩オサメ

166ウ

一、去ル十一月四日於東京表ニ被 仰付左之通り

十二月十七日 寅 雨

於六浦表不埒之儀

有之候間永之御暇

一、被下六浦御陣屋東

御厩小頭

京御邸野州御分庁

松田長藏

出入御支配所徘徊

被成御構候

一、去ル十二月八日於東京表被 仰付左ニ

参事公用之事

一、務會計周旋方少

河田武平

参事助

任大属所関如書面

一、参事

村山喜八郎

公用之事務會計

一、周旋方

関口藤助

任少属所関如書面

参事史生兼庁

一、掌

任権少属所関如書面 佐伯数之助

以上

十二月十六日 高澤弥三郎

166才

十二月十六日 丑 晴

一、今日トシタクニ付参局無之

一、高沢弥三郎引込日数御届書同勤を以差出候間則大参事江

及進達候

私儀当十一月中旬より痲症ニ而引込宮川

辨治薬服用無油断療養仕候得共

今以暇と不仕近々出勤可仕体無御座候

間引込日数ニも相成候間此段御届申上候

167才

任大属所関如書面

一、参事

村山喜八郎

公用之事務會計

一、周旋方

関口藤助

任少属所関如書面

参事史生兼庁

一、掌

任権少属所関如書面 佐伯数之助

167ウ

一、任庁掌可為兼會計關係

久保幸次郎

任史生附屬可為

一、參事關係自今

宮本大次郎

下祿士族給被下之

一、予備兵隊被

堀江 勇

仰付之

海老原廉太郎

一、使部被

鈴木範之助

仰付之

168才

使部被 仰付之

一、自今可為上祿卒

桜井斧太郎

編入

御家従手伝被

仰付月給半高被

一、下之東京^三而御用可

栗原鍔造

相勤候当分御雇御

合力如旧上祿卒編入

一、予備兵隊被 仰付当分

須藤又作

168ウ

御雇御合力如旧上祿卒編入
一、高木林兵衛左之願書及進達候段申聞有之候間承置

巖^{イワ}

傳藏

巖と名改可被申候

右両名之内改名仕度此段奉

願候以上

十二月十七日

高木林兵衛

一、^(朱書) 藪田定之^(マ) 左之願書差出候間萩原大属川上大参事^江及進

達候処御同人御落手

相成候事

要人

喜又

藪田定之^(マ)

要人と名改可申候

同文言

才藏

藤次

森川才助

才藏と名改可被申候

同文言

清

馮

石川兵助

清と名改可被申候

同文言

169才

省吾と名改可申候

同文言

省吾
深

堀井庄左衛門

文平と改名可申候

同文言

文平
精一

黒川文右衛門

弥六と名改可申候

同文言

弥六
弥一

前田弥助

門三郎と名改可申候

同文言

門三郎
友衛

宮尾定右衛門

願之通名改可申候

右養父之名ニ相改申度此段

奉願候以上

十二月十七日 野本鋌之助

右願書夫々及進達候旨名(銘)々より申聞有之承置

一、篠原治助左之願書差出候間萩原唯作より川上大参事^江

及進達候処御落手相成候事

治平と名改可申候

右両名之改名仕度此段奉願候

治平
平治

以上

十二月十七日 篠原治助

一、官名之向は改名致し候様被 仰出之廉も有之候ニ付
下卒林七之助布川又左衛門右兩人官名ニ付改名可致
候相達候処奉畏候段申述無程左之願書差出^(マ)

林七之助事

七郎

布川又左衛門事

又藏

右之通改名仕候此段御届申上候以上

十二月十七日

右之願書差出候間承置候事

一、罌田八太郎東京 御供詰相達候処御請申出候事

一、織田從右衛門同福之助左願書及進達候段申聞

承置

豊^{ミノル}

又衛

豊と名改可申候

右両名之内改名仕度此段奉願候以上

十二月十七日 織田從右衛門

完^{タモツ}

完と名改可申候

同文言

織田福之助

大八

十二月十八日 卯 晴

- 一、手塚謙之助左之届書関根半平ヲ以差出候間萩原大属より川上大参事^江被及進達候処御同人御落手相成候事

私妻儀今卯之刻出産女子

生仕候依之来ル廿四日迄産穢

罷成申候此段御届申上候以上

十二月十八日 手塚謙之助

172才

- 一、津田多宮今日拝領御長屋^江引移候段予備郷(響)導より届有之承置

一、篠原治助風邪^ニ付引込届関根半平ヲ以届有之

候間萩原大属より大参事^江相届

一、坂田伴助左之願書及進達候段申聞承置

胖

鼻

胖と名改可申候

右両名之内改名仕度此段奉願候以上

十二月十八日 坂田伴助

173ウ

172ウ

- 一、廣澤安右衛門左之願書差出候間萩原大属川上大参事^江及進達候処御同人御落手相成候事

七保次

勝造

勝藏と名改可申候

右両名之内改名仕度此段奉願候以上

廣澤安右衛門

磯七

茂作

中川惣助

磯七と名改可申候

同文言

十二月十九日 辰 晴

一、明後^(マコ)廿二日 知事様為御朝集御発駕被成候^ニ付

都而御用御多端依之明後廿一日トシタク^ニは候得共第十字

より大参事御出局有之旨川上大参事被仰聞候間其段廻状

を以御藩中^江相達候

一、都筑鍾之助改名願書差出候旨同勤より申聞有之承り置

求

音人

求と名改可申候

右両名之内改名仕度此段奉願候以上

庚午十二月十九日 都筑鍾之助

一、茂呂郡兵衛去ル十七日左之改名願書差出候旨当人より申聞

有之^一

承り置

郡藏

郡作

郡造^(カ)と名改可被申候

右両名之内改名仕度此段奉願候以上

十二月十七日 茂呂郡兵衛

十二月廿日 巳 晴

一、知事様御支配所為御巡村御出被 仰出候旨参事

詰番新倉少属より案内有之

一、関根鑛司横濱表^江御用向^ニ付^ニ出役候事

一、御藩制被^レ仰出之節昼第八字御出庁第十二字御入諸官

準之と御規則^ニ相成候処大参事方御用向有之第十二字

退席不被致候節は参事局^ニて詰番忝人監察局^ニて

当番心得忝人録事^ニて当番忝人相残居余は退局致候て

宜敷御座候哉参事方監察^ニて萩原大属より大参事^江

相伺候処伺済^ニ相成候事

一、高木林兵衛改名願済^ニ相成候旨当人申聞承置

一、石川兵助茂呂郡兵衛野本^{マユ}之助織田福之助都筑

鏈之助森川才助織田從右衛門宮尾定右衛門前田弥助

堀井庄左衛門黒川文右衛門坂田伴助藪田定之^{マユ}中

川惣助廣澤安右衛門右之面々改名願済^ニ相成候間為御札

参事局^江差出ス

一、小峯藤次郎左ノ届書及進達候旨申聞承置

角田市太良母儀相州高坐郡深谷村

親類共へ無^レ扱用事御座候^ニ付去ル五日

罷越候処用弁相済昨夕帰着仕候此段

従私御届申上候以上
十二月廿日 小峯藤次郎

一、知事様為御朝集明後廿二日七ツ半時被遊

御発駕候^ニ付左之面々服紗小袖麻上下着用七時相揃恐

悦可申上候様川上大参事被仰聞候役々左^ニ記ス

参事 筆頭 権少属忝人

會計局 筆頭 権少属忝人

監察局 筆頭 権少属忝人

軍務局 筆頭 嚮導忝人

明允官 助教忝人

戦兵官 筆頭 進教師忝人

民政 史生忝人

筆頭 使部忝人

筆頭 医員忝人

筆頭 御内家忝人

右之面々^江以廻状相達ス

一、於東京表^ニ改名願済之面々左^ニ記

董

續

十二月十六日 関口藤助

董と名改可被申候

右兩名之改名仕度此段奉願候以上

十二月十六日 関口藤助

讓

直

佐伯数之助

同文言

廉平

拙藏

同文言

宇田節之助

175ウ

讓と名改可被申候

同文言

今般從

朝廷藩制被

仰出候ニ付是迄之等級

御廢止俸祿返還被

一、仰付吏ニ士格之下録（祿）并 角田市太郎

面扶持被下之貢進生勤

中準史生被仰付之月給

是迄之通り

176才

一、村山喜八郎関口董去ル十五日於東京表宇田權大参事

御口達ニ被 仰付左ニ

已来御内家御用弁官

御進達等御代参御親類様

一、方江御使者其外何事不寄 村山喜八郎

都而取扱候様兼勤被

仰付之

是迄御内家御用向取扱

一、以来被免候間村山喜八郎ニ 関口 董

引送り可申候

176ウ

一、角田市太郎貢進生勤中從前身分諸願届共軍務局

ニて取扱之処今般準史生被 仰付候就而は已後監察ニ而

取扱之事

十二月廿一日 午 晴

一、川上大参事殿左之御願書被差出候ニ付増田大属より及進達

同人申聞候左ニ記

今般御改革ニ付私官給結構被成下重々難有

仕合奉存候然処権官より多分相増居私儀

痴鈍□□度々御辞退申上候得共被成御厚

□候ニ付乍不肖恐懼相勤居候儀ニ付私一身限

何卒権官之官給頂戴仕其余は奉還仕度

此段奉願候以上

庚午

177才

十二月廿日 川上浣ニ

右御辞退相成候ニ付而は以後権大参事官給ニ五石増被下候

之旨

被仰出候事

一、明曉七半時 御発駕之処七時 御発駕と御取直相成候旨

其段以廻章右恐悦申上候面々江相達

一、御玄関左右江台張挑灯式ツ三組飭手桶壺対

一、表御柵御門江台張挑灯式ツ三組飭手桶壺対

一、裏御柵御門江台張挑灯式ツ三組飭手桶壺対

右差出方取計候様營繕雜事江相達候

177ウ

但台張挑灯飭手桶差出方之儀今般御改革之処旁自今營繕

取計と萩原

権大属營繕江申達候事

一、表裏御門番并中番は看板相改候様下卒小頭林七郎江

相達候事

一、明曉出立之御供詰之面々 若殿様江為御暇乞大参事

御詰所^江差出候事

一、知事様明暁 御発駕^ニ付夜明迄御途中御供可罷出候様

左之面々^江御達相成旨参事詰番より申聞有之性(姓)名左^ニ記

戸田鉄太郎

大嶋源三郎

野本 束

下城達次郎

178才

一、小蛇打御持鎗御替鞘添御家扶恒岡碩五郎^江引渡候事

但 御替鞘は是迄御内家^江渡置候事

下卒

一、角拔陣笠

六蓋

但内壺蓋鉄角拔金

下卒

一、御貸大小

式腰

右之品前同人^江相渡候事

一、知事様明暁七時被遊 御発駕候間中番^ニ申付高触

為致候事

一、八時老番触 八半時式番触 七時三番触御供揃

御発駕候事

一、明暁御発駕^ニ付御玄関戸障子取払御通筋等掃除

178ウ

為致候段軍務局嚮導^江及案内置中番^ニ申付為致掃除

候尤中番忝人^ニ而手廻兼候^ニ付司僕^江申談下僕忝兩人

為差出候事

一、御玄関并両御門其外共御入用^ニ付蠟燭見積臨時請取候事

十一(十二)月廿二日 未晴

一、今暁七時

知事様 御発駕被成候^ニ付局頭之面々并御内家等

御玄関^ニ並居御発駕之恐悦申上候川上大参事

御取合 御意有之御礼申上之前御同人御取合

名前順席左之通

179才

軍務局

嚮導

筆頭

濱野八十人

明允館

助教

筆頭

宮川辨治

戢兵館

準教師

筆頭

今藏信吾

参事局

兼庁掌

筆頭

篠原権少属

監察局

監察

筆頭

伊藤権少属

会計局

営繕司僕庖厨雜事

筆頭

萩原権少属

民政

史生

筆頭

中井新三郎

使部

筆頭

藤澤元次郎

医員

同

澤田敬齊

御内家

但御用引之事

以上

179ウ

右御歡大参事^江御詰所^江罷出申上之

一、知事様益御機嫌能 御発駕被為濟候^ニ付何れも引続

私儀東京表親類共^江無拋用事御座候^ニ付

罷越申度奉存候依之何率(卒) 往返七日立帰

可為願之通候

御暇被下置候様仕度此段奉願候以上

十二月廿二日

今藏信吾

- 一、右即刻御附札濟相成候ニ付直ニ出立之事
- 一、明廿三日

陽徳院様御祭ニ付御藩之面々服紗小袖麻上下着用

朝五時より四時迄ニ御家廟江参拜可致様且不参之

向は其旨当局江相断候様以廻章御藩中江相達候事

- 一、宮川辨治今日拝領御長屋江引移候旨句続(読) 師川上太郎ヨリ

申聞有之承置

十二月廿三日 申 晴

一、御藩之面々清服ニ而 御家廟江致参拝候事

一、今日 御家廟江拝礼性(姓) 名帳御家廟直掌より差出候間不参之向取調候上参事詰番増田大属江差出候事

一、来未年正月分官給常録(禄) 共明廿四日四半時御渡

相成候間會計中沢権大属申聞候間則以廻章御藩江

相達候

180ウ 一、来廿九日東京江御定便之処御都合ニ付廿六日御差立と

御繰替相成候旨川上大参事被仰聞候間其段以廻章御藩

中江相達候尤当月限り之事

一、明廿五日諸芸稽古取ニ付当勤ニ而稽古罷出候面々は

四時教館江相揃可申無勤之者并女子は同刻明允館江

相揃候様川上大参事被仰聞候間是又以廻章御藩江

相達候事

一、山田松之助改名願差出候ニ付助教宮川弁治より申聞有之承り置

功 巧 操

181才

功と名改可申候

右両名之内改名仕度此段奉願候以上

庚午

十二月廿四日 山田松之助

出精相勤候ニ付御鼻

一、紙料金百匹御増被

田中謙次郎

下之

一、右被 仰付学校ニおいて佐藤忠蔵被相達候旨参事

詰番増田大属申聞候

一、大洞定市拝領御長屋江今日引移候旨当人より申聞有之

承り置

一、手塚謙之助産穢今日迄ニ而明日より出勤之旨同勤藪田

要人ヲ以届申出候間其段大参事江申上候

十二月廿五日 酉 雪

181ウ 一、手塚謙之助改名願藪田要人を以差出候間則大参事江

及進達候

貞藏

貞司

貞藏と名改可申候

右両名之内改名仕度此段奉願候以上

庚午十二月廿五日

手塚謙之助

一、立川源五郎今日拝領御長屋^江引移候旨当人より申聞有之承置

一、今日諸芸稽古^江付稽古罷出候当勤之面々一同教館^江相揃候間其段参事局詰番^江申述無程於同所^江一同御赤飯料金老朱ツ、被下之

但当役より銘々^江相渡候事名前略之

182才

一、御赤飯料頂戴之為御礼一同大参事御詰所^江差出候

一、下卒林七郎大井宗十郎岡田八太郎加藤健次郎^江も

同断^江付御赤飯料被下置候間配下之御礼萩原権大属より大参事^江

御詰所^江申上之

一、知事様御儀去廿二日御道中無御滞東京御上邸^江被成御着座候^江付局々詰合之面々并御内家は当番老人右御歛可申上候旨川上大参事被仰聞候間其段夫々^江相達即刻何れも大参事御詰所^江罷出御歛申上之

唯今平服御用 織田 豊

御用有之候

182ウ

- 高嶋省三郎
- 高沢弥十郎
- 大久保 仲
- 河合宇三郎
- 大嶋源三郎
- 相川徳三郎
- 都筑 求

- 濱野長太郎
- 森川才蔵
- 千葉喜太郎

準(唯今力) 平服御用

183才

- 川上太郎
- 前田國松
- 窪田廣太郎
- 佐藤謙司
- 田中謙次郎
- 幸嶋徹造
- 田中廉吉
- 今井保太郎

以上

一、右之面々御用之旨川上大参事被仰聞候旨詰番柴田権大属相達候間則面々^江相達候処奉畏候旨御請申上候間其段前同人^江

申述無程御詰所^江において川上大参事御口達

萩原唯作跡御長屋三間

一、被下之是迄之御長屋

御用^江付可差上候

織田 豊

183ウ

- 高嶋省三郎
- 高澤弥十郎

堤宝山流劍術

一、金百五拾匹ツ、

大久保 仲

大島源三郎

濱野長太郎

森川才藏

184ウ

前

一、金三百疋束

窪田鑛太郎

幸嶋徹造

田中廉吉

今井保太郎

右堤宝山流劍術必勝之免受候ニ付被下之

右は講議(義)宜出来候ニ付被下之

但田中廉吉今井保太郎は窪田幸嶋兩名代之事

一、金百五拾疋ツ、

相川徳三郎

右畢而為御請御札何れも御詰所江差出之

右田宮流劍術中免受候ニ付被下之

良造粹

一、金百疋

長谷川武造

一、金百疋

河合宇三郎

右は堤宝山流劍術前太刀目録受候ニ付被下之

184才

右田宮流劍術目録(録)受候ニ付被下之

茂呂次郎太郎

一、金百疋

都筑 求

185才

一、金五拾疋ツ、

繁三郎粹

右堤宝山流劍術前太刀目録受候ニ付被下之

飯田喜三郎

弥六粹

川上太郎

前田乙次郎

前田國松

右は素(素カ)読格別致勉励候ニ付被下之

佐藤謙司

右被下之廉参事詰番柴田権大属申聞之承置

田中謙次郎

十二月廿六日 戌 雨

右講議(義)宜出来候ニ付被下之

一、萩原唯作高澤弥三郎今日拝領御長屋江引移候ニ付

其段大参事江及御届候事

後一、金五拾疋

千葉喜太郎

一、長坂小平太森川才藏今日拝領御長屋江引移候旨

右素読格別勉励致候ニ付被下之

当人共より申聞有之承置候

一、幸嶋徹造川村学校より明允館江今日引移候旨当人

185
ウ

より申聞有之承り置候

十二月廿七日 亥 晴

一、小岑藤次郎左之願書差出候旨当人より申聞有之承り置

養父重左衛門拝領仕候

御紋服私着用仕度此段奉願候以上

十二月廿七日

小岑藤次郎

一、野本権藏引込日数御届藪田要人ヲ以差出候間萩原

権大属より大参事^江及進達候事

私儀当九月下旬より風邪^ニ而引込宮川

辨治薬服用仕候得共兎角同篇^ニ付田中

玄悦^江転薬無油断療養仕候処今以耽と

不仕近々出勤可仕体無御座候猶又引込日数

にも相成候間此段御届申上候以上

庚午

十二月廿七日

野本権藏

一、来ル未正月三ケ日丈ケ諸局四時出局可仕之旨川上大参事

被仰聞候間其段以廻章御藩中^江相達之

十二月廿八日 子 晴

一、諸局詰合面々服紗小袖麻上下着用歳末之御祝儀

御詰所^江罷出申上之

人日 上元 上巳 端午 七夕

中元 重陽 歳末

186
ウ

右八節句は自今左之役々清服^ニ而四時参局

御祝儀可申上

187
ウ

参事

民政

會計

監察

使部

御内家

右は詰合之面々

軍務

戦兵館

右之内^ニ而忝人

明允館

右之内^ニ而忝人

医員之内

忝人

士族非役之内

忝人

上禄卒非役之内

忝人

以上

右之通御取究相成候旨大参事衆被 仰聞候間

其段御藩^江以廻状相達ス

187
ウ

一、監察内御用相勤候村方六人之者^江出精相勤候^ニ付御目錄百疋宛被下候^ニ付以廻状^ニ而相達ス

十二月廿九日 寅 晴

一、来正月元日春

御祭典ニ付

三侯大明神 御家廟_江御藩之面々服紗小袖

麻上下着用五ツ時より四ツ時迄ニ参拜可致旨大参事御

沙汰ニ付甚旨御藩_江相達ス

一、今藏良治殿左之御届書及進達候段増田大属方より申聞有之候事

私娘儀長尾藩中村重太郎_江

縁組願之通被 仰付候間当八月

中差遣シ申候然ル処不縁ニ付双方

熟談之上離縁仕今日私方_江引取申候

此段御届申上候以上

十二月廿九日

今藏良治

一、大(太) 政官より之御触書壱折川上大参事衆御渡被成候間御藩以廻章相達ス

一、菊御紋附御幕今日より御裏御門_江相張候様川上

大参事衆被 仰聞候間雜事方より請取營繕方_江

相談シ而相張候事

右之御紋附御幕以来当局之御預りニ相成候事

188ウゝ190ウ (白紙)

(裏表紙裏)

伊藤景員

關根久要

勤役中

【表】武州金沢藩士 改名一覧

従来の氏名	候補名（採用）	候補名（不採用）	従来の氏名	候補名（採用）	候補名（不採用）
萩原唯右衛門	唯作	雙	野本鋌之助	束（養父の名を継ぐ）	
今蔵良左衛門	良治	良作	篠原治助	治平	平治
増田朔右衛門	茂（しげり）	朔（はじめ）	林七之助（卒族）	七郎	
柴田又右衛門	相造	相一	布川又左衛門（卒族）	又藏	
山口篤之進	篤	篤治	織田従右衛門	豊（みのる）	又衛
萩原文之進	文友	文（かざる）	織田福之助	完（たもつ）	大八
三木壱之助	榮	森（しげる）	坂田伴助	胖	昇
河合脩輔	脩（おさめ）	登	廣澤安右衛門	勝藏（願書は「勝造」）	七保次
高木林兵衛	巖（いわを）	傳藏	中川惣助	礪七	茂作
藪田定之丞	要人	喜又	都筑鍾之介	求	音人
森川才助	才蔵	藤次	茂呂郡兵衛	郡造（願書は「郡藏」）	郡作
石川兵助	清	馮	関口藤助	董	績
堀井庄左衛門	省吾	深	佐伯数之助	讓	直
黒川文右衛門	文平	精一	宇田節之助	廉平	拙藏
前田弥助	弥六	弥一	山田松之助	功	操
宮尾定右衛門	門三郎	友衛	手塚謙之助	貞藏	貞司

〔日記〕明治3年（「萩原家文書」116、萩原義則氏寄贈、横浜市歴史博物館所蔵）より